

千葉大学 大学概要

2024-2025

CONTENTS

大学概要

01	理念	
01.1	学長挨拶・千葉大学憲章	02
01.2	ビジョン	03
02	概要	
02.1	データで見る千葉大学	04
02.2	沿革・歴代学長	06
	創立75周年記念事業	08
02.3	学章等	09
02.4	千葉大学の価値創造プロセス	10
03	特色	
03.1	研究推進	
	・地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)	12
	・未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点 (cSIMVa)	13
	・国際高等研究基幹 (IAAR)	14
	・学術研究・イノベーション推進機構 (IMO)	19
	・スタートアップ・ラボ	20
03.2	教育・グローバル	
	・千葉大学グローバル人材育成 -ENGINE-	21
	・全学副専攻プログラム・バンチプログラム	23
	・海外拠点・交流協定校	24
	・大学の世界展開力強化事業	25
	・先進科学プログラム / 飛び入学	26
	・亥鼻キャンパス高機能化構想と亥鼻IPE	27
03.3	社会貢献・経営	
	・コミュニティ・イノベーションオフィス	28
	・高大連携・高大接続に関する取り組み	29
	・環境ISO	30
	・ダイバーシティ推進の取り組み	31

04	組織・施設	32
04.1	組織・施設の整備	32
04.2	組織図	34
04.3	学部	35
04.4	大学院	38
04.5	共同利用教育研究施設	41
04.6	未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点	42
04.7	学部等附属の教育研究施設	42
04.8	アカデミック・リンク・センター / 附属図書館	43
04.9	医学部附属病院	44
04.10	教育学部附属学校	47
05	財務情報	
05.1	令和5事業年度決算	48
05.2	令和6年度予算	58
	キャンパスマップ	59
	アクセス	63
	千葉大学基金	64

編集方針

本学の大学概要は、組織や施設の基本データに加えて、国際統合報告評議会（IIRC）が示すフレームワークに準拠し、財務情報と非財務情報（ビジョン、教育・研究・社会貢献の実績、特色ある取組・活動、価値創造プロセス等）を統合的に発信することで、多様なステークホルダーの皆様の本学の現状や目指している方向性についてご理解いただき、本学の持続的な発展に向けた対話につなげることを目的としています。

"つねに、より高きものをめざして"

学長挨拶

少子化と人口減少が進む中、日本社会が発展を続ける道筋が模索されています。海外へ目を向けると、ウクライナやガザ地区など国家・民族間の争いが絶えず、また、環境破壊や温暖化、災害の頻発・多様化など地球規模で解決すべき課題も数多く存在します。一方で、AIなどの新たなテクノロジーや学問の進歩は、人類にとって希望であり、持続可能な社会への貢献が期待されているところです。

千葉大学は、「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、そのような時代や環境の変化に対応して課題解決に貢献できる人材を育成し、地域社会はもとより、「世界に冠たる千葉大学」として世界の中で輝き、輝かしい未来を牽引し、選ばれる教育研究大学となることを目指しています。現在11学部、19大学院を有し、幅広い教養と高度の専門性を修得できるアカデミア環境を備えています。

教育面では、最高学府にふさわしい優れた学問を修める中で、高い知性と豊かな人間性を育み、グローバル社会でリーダーとして活躍できる人材を養成しています。「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」プランでは、全員留学を必修化し、世界の視点から日本を視る目を養います。

研究面では、2022年度に国際高等研究基幹を設置し、学問の多様性を尊重しつつ、新たな領域の開拓につながる学術研究や、社会に変革をもたらす先端的研究を推進するとともに、若手や中堅の研究者支援と人材育成に力を注いでいます。また、学術研究・イノベーション推進機構(IMO)を中心に、社会実装に向けた産官学連携を強力に推進しています。

2024年、千葉大学は創立75周年を迎えます。これからも教育界、産業界、医療界などの各分野、行政や地域の皆さまと密に連携し、社会に貢献し、信頼され、親しまれ、誇りとされる存在でありたいと願います。その原動力は「人」です。学生も教職員も、誰もが自分らしさを追求でき、人を豊かにする魅力溢れる大学を、皆で力を合わせて実現してまいります。



国立大学法人 千葉大学長
横手 幸太郎

千葉大学の理念

千葉大学は、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

千葉大学の目標

私たち役員と教職員は、上記の理念のもと、自由・自立の精神を堅持して、地球規模的な視点から常に社会とかわりあいを持ち、普遍的な教養(真善美)、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献します。

01 私たちは、学生が個々の能力を発揮して「学ぶ喜び」を見だし、鋭い知性と豊かな人間性を育てていく自律成長を支援するために、最高の教育プログラムと環境を提供します。千葉大学は、学生と私たちがともに学ぶ喜びを生きがいと感じ、ともに成長していく知的共同体です。

02 私たちは、学生とともに、社会で生じるさまざまな問題の本質を、事実を踏まえて深く考察し、公正かつ誠実な問題解決に資する成果を速やかに提供して、社会と文化ならびに科学と技術の発展に貢献します。

03 私たちは、総合大学としての多様性と学際性を生かし、国内外の地域社会・民間・行政・教育研究諸機関と連携して、領域横断的研究と社会貢献を積極的に推進します。

04 私たちは、各人の個性・能力・意欲および自主性が継続的に最大限発揮され、意欲ある人材が積極的に登用される仕組みと環境を構築し、時代の変化に応じて柔軟に大学を運営します。

Chiba University Aspirations

Towards a world preeminent academic institution

世界に冠たる千葉大学へ

World Leading Research

国際頭脳循環の中核として世界最先端の研究を展開

- 学問の多様性を尊重し独創的な研究を推進
- 学際研究領域を開拓する世界水準の学術研究を推進
- 新たな価値を創造するイノベティブな研究を推進
- 国際高等研究基幹による戦略的な研究教員組織を構築

Global Education

世界に学び世界に貢献する人材の育成

- 世界をキャンパスに最先端を学修できる優れた教育環境を提供
- グローバル社会のリーダーたる資質とチャレンジ精神を涵養
- 幅広い教養と豊かな知性ととも高度な専門性を錬磨
- 国際未来教育基幹の強化による最高水準の先進的教育基盤を構築

Holistic Governance

運営基盤を強化し、持続的な発展を導く大学経営

- デジタル・トランスフォーメーション(DX)による戦略的な大学運営
- 個々の力を引き出し、協働体制で競争力を強化
- 誰もが生き生きと活躍できる多様性のあるアカデミア環境を構築
- 戦略的広報活動と社会資源の有効活用

Social Engagement

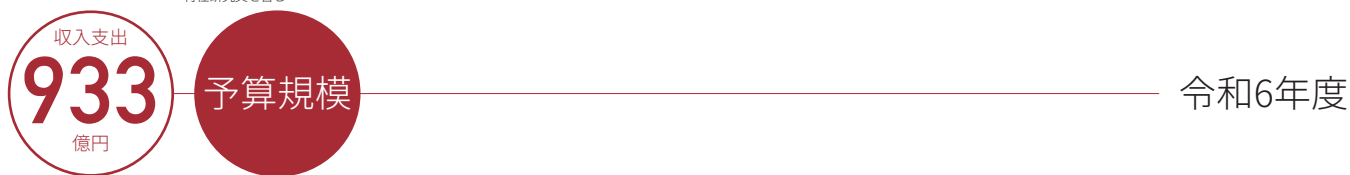
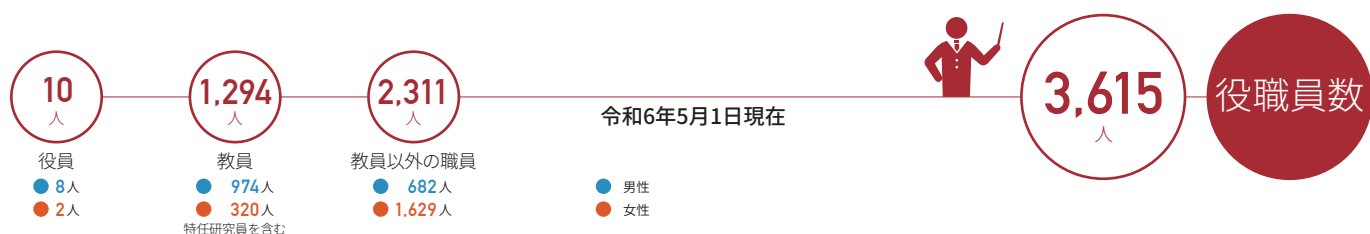
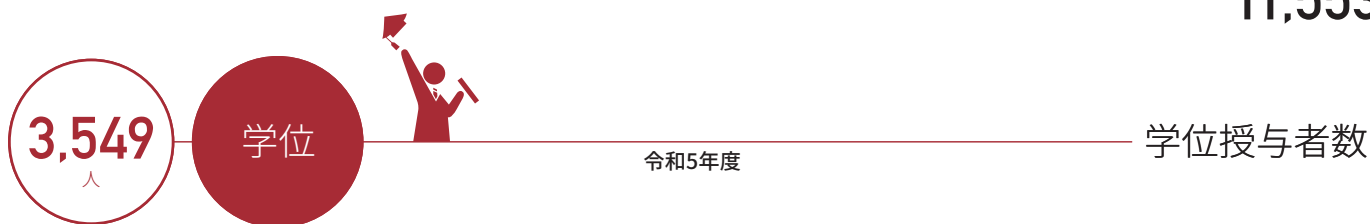
社会に大きく貢献する千葉大学

- 高度な研究成果や優れた人材の育成を通じて社会の持続的発展に貢献
- 卓越した知と人材の集積拠点として環境や地域社会に貢献
- イノベーションの創出に向けた産学官連携の強化
- 世界をリードする千葉大学ブランドの定着

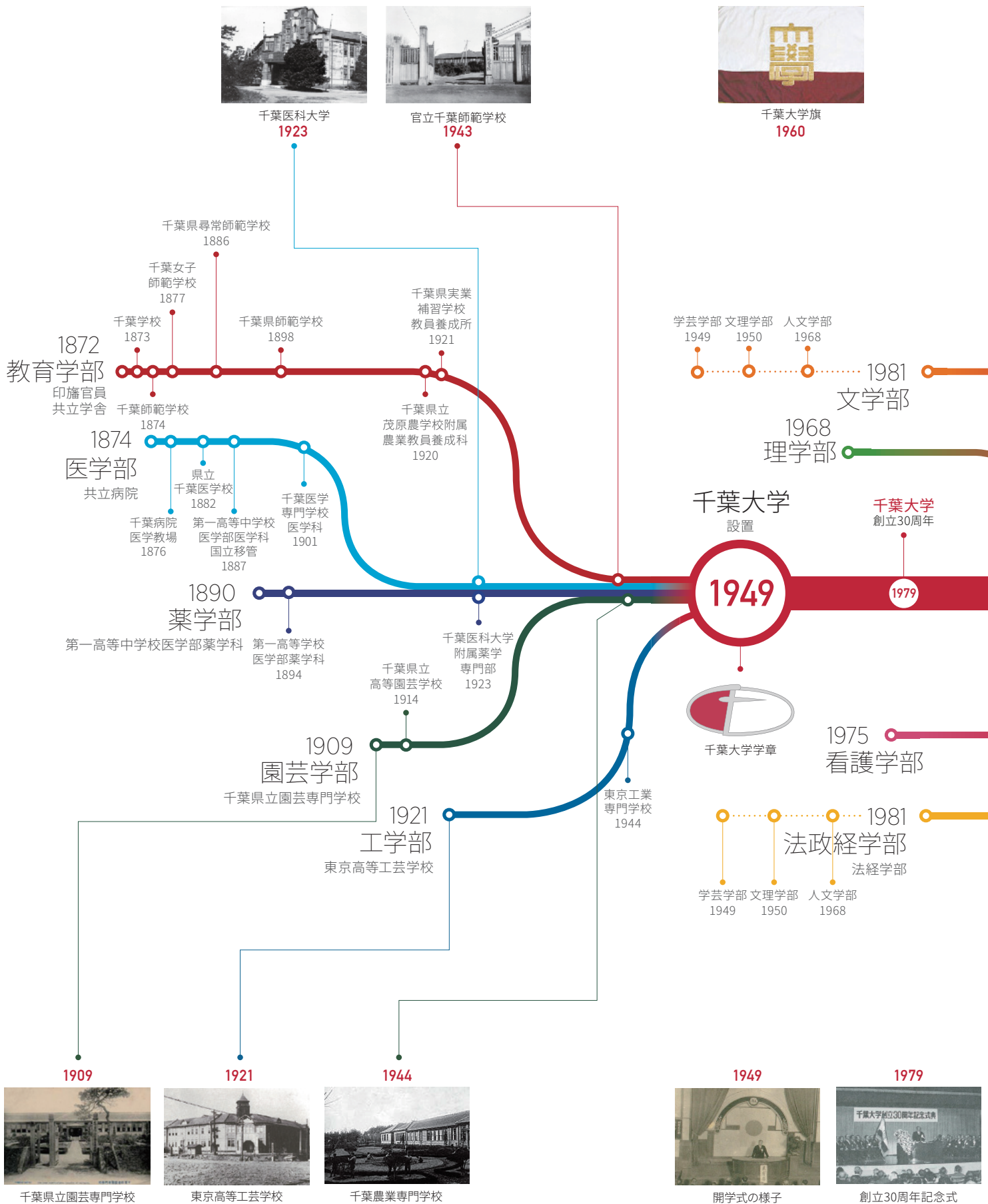
ALWAYS AIM HIGHER

データで見る千葉大学



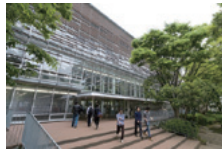


沿革・歴代学長



歴代学長

初代	小池 敬事	昭24.05.31~昭32.05.31	第8代	井出 源四郎	昭57.08.01~昭63.07.31
第2代	小林 政一	昭32.06.01~昭36.05.31	第9代	吉田 亮	昭63.08.01~平06.07.31
第3代	荒木 直躬	昭36.06.01~昭37.01.30	第10代	丸山 工作	平06.08.01~平10.07.31
(事務取扱)	谷川 久治	昭37.01.30~昭37.03.01	第11代	磯野 可一	平10.08.01~平17.03.31
第4代	谷川 久治	昭37.03.02~昭43.03.01	第12代	古在 豊樹	平17.04.01~平20.03.31
第5代	川喜田 愛郎	昭43.03.02~昭44.04.01	第13代	齋藤 康	平20.04.01~平26.03.31
(事務取扱)	湊 頭	昭44.04.01~昭44.06.23	第14代	徳久 剛史	平26.04.01~令03.03.31
(事務取扱)	香月 秀雄	昭44.06.24~昭45.07.31	第15代	中山 俊憲	令03.04.01~令05.11.02
第6代	相磯 和嘉	昭45.08.01~昭51.07.31	(学長代行)	中谷 晴昭	令05.11.03~令06.03.31
第7代	香月 秀雄	昭51.08.01~昭57.07.31	第16代	横手 幸太郎	令06.04.01~

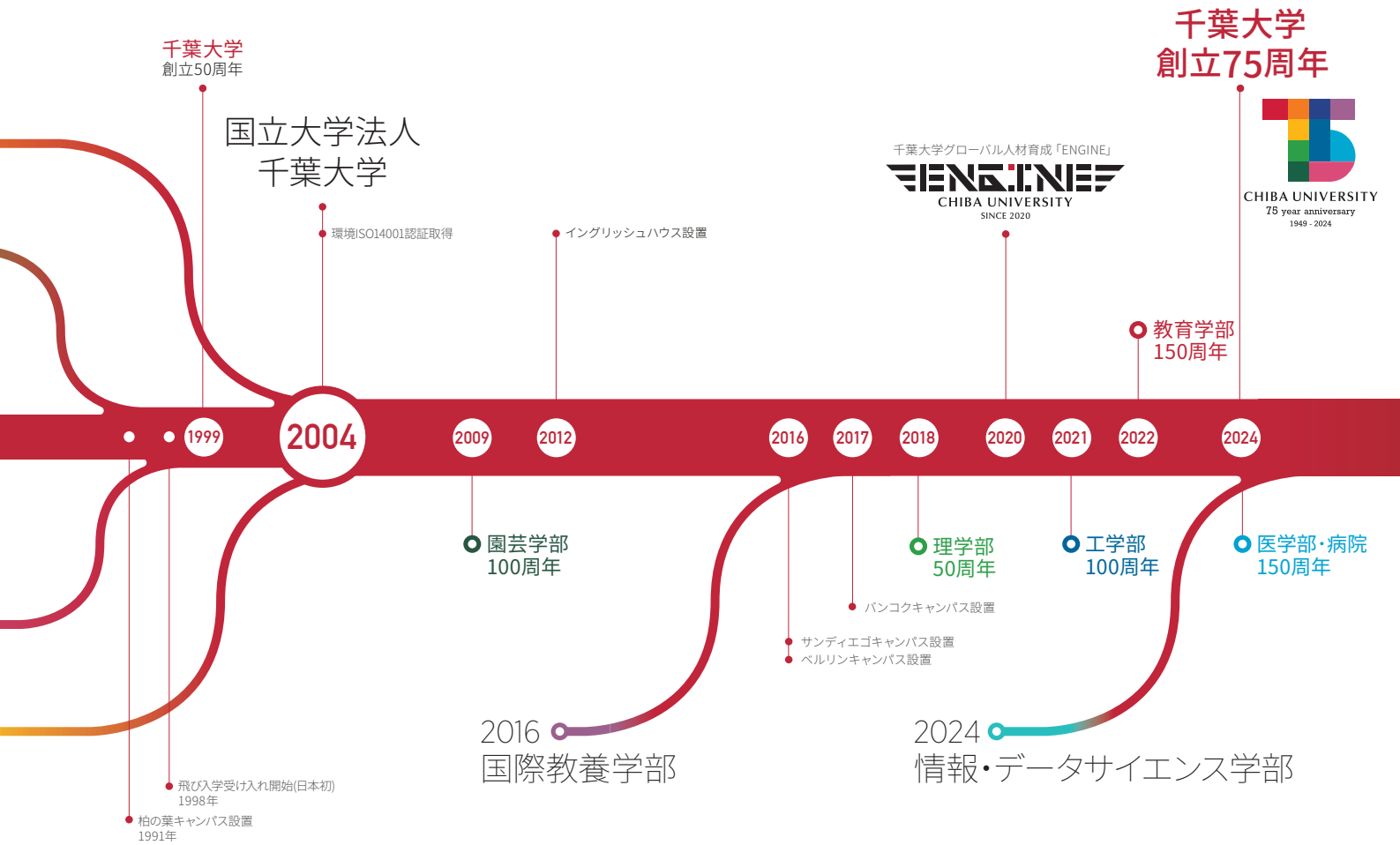


アカデミック・リンク・センター
2011



CHIBA UNIVERSITY

コミュニケーションマーク
2016



千葉大学は
1949年に新制国立大学として生まれました。
2024年、創立75周年を迎えます。

1982



やよいの鐘

2019



ニシ イノ マツ
千葉大学マスコット

2020



医学部附属病院新中央診療棟

2021



墨田サテライトキャンパス設置

2021



医学系総合研究棟

2023



スミ

千葉大学マスコットにスミが仲間入り
※図中の西暦は年度を表す。

Ⅰ 創立75周年記念事業

千葉大学は、1949（昭和24）年に新制国立大学として戦前の7つの学校を母体に医学部・薬学部・学芸学部・園芸学部・工学学部の5学部から出発し、2024（令和6）年に創立75周年を迎えます。

創立75周年を迎えるに当たり、「千葉大学創立75周年記念事業」として記念行事の実施のほか、以下のような取り組みを行っています。

ロゴマーク

千葉大学の全学生、教職員を対象にアンケート投票を実施のうえ決定しました。75の数字は、学部カラーを用いて構成されています。



CHIBA UNIVERSITY
75 year anniversary
1949 - 2024

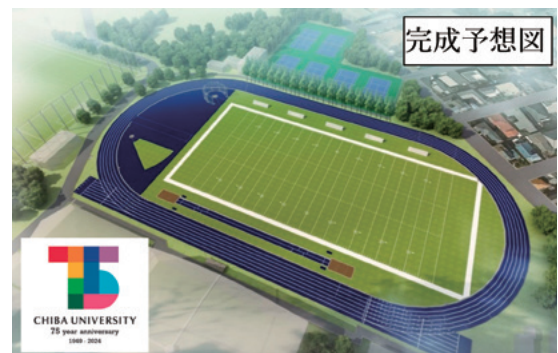
年史

『千葉大学三十年史』（1980年）及び『千葉大学五十年史』（1999年）に引き続く形で、『千葉大学七十五年史』をWeb掲載版として作成することを予定しています。また、記念行事等で配布できるように、写真等のビジュアルイメージを多用した読みやすい冊子媒体の75年史別冊記念誌「CHIBA UNIVERSITY 75year 1949-2024」の編集作業も進めています。

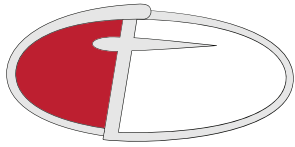
募金

75周年を記念する「大学独自の一大プロジェクト」として陸上グラウンド整備を計画しており、その資金を記念募金として募っています。学生・卒業生・教職員が一体となり、学生が豊かに伸び伸びと学部や学年を超えて仲間たちとの交流を推進できるよう、快適な陸上グラウンドの整備を目指すものです。

また、陸上グラウンドは、千葉市の広域避難場所にも指定されており、学生が授業や課外活動で安心安全に利用するだけでなく、防災機能強化の観点からも地域住民の皆様の安全を確保してまいりたいと考えています。



千葉大学学章



昭和24年10月に学内公募により『千葉大学バッジ』として制定された、歴史や伝統を反映した由緒あるこのマークを、平成25年4月に千葉大学の学章として制定しました。デザインは故赤穴宏氏（元千葉大学名誉教授）によるものです。Chiba Daigakuの頭文字「C」と「D」を組合せるとともに、千葉大学の「千」を配して構成されたもので、輪郭は無限の生命力を象徴する植物の種子を形どっています。左側部分の暗紅色は情熱を、右側部分の白色は純粹を表現しています。

千葉大学コミュニケーションマーク



国際教養学部を設置や、全部局で世界最高水準の教育研究を行う第三群の大学として改革を進めていく本学の姿を象徴するマークとして、平成28年4月に制定しました。デザインは張益準准教授（デザイン・リサーチ・インスティテュート）によるものです。シンボル部分は本学のビジョン「Global、Research、Innovation、Branding、Synergy」の原動力となる『コミュニケーション』と、本学の長い歴史とともに歩んできた大学カラーの『ガーネット』をキーワードとしています。構成員一人ひとりが、様々な場面でこのマークを使用することで、大学の一体感を強めるとともに、千葉大学ブランドを高めていきます。

千葉大学旗

昭和35年2月に学旗として承認されたもので、学章と同じ色彩が取り入れられています。



千葉大学歌

昭和35年2月制定
勝承夫 作詞 平井康三郎 作曲

大学ウェブサイトにて音源等を公開しています。
<https://www.chiba-u.jp/general/outline/songflag/index.html>



やよいの鐘



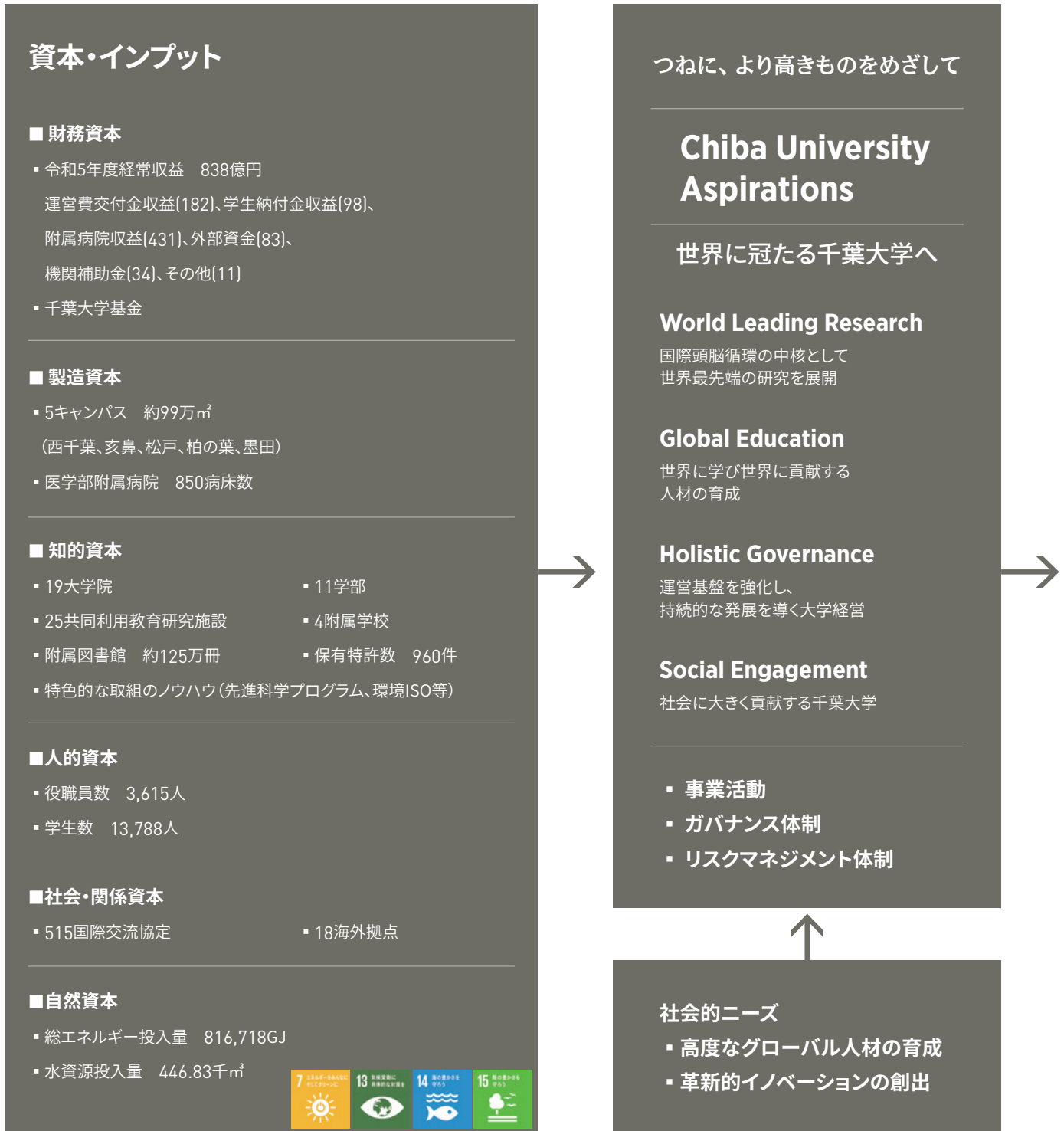
千葉大学創立30周年記念事業の一環として附属図書館本館塔屋に設置され、昭和57年3月に除幕式が行われました。現在も西千葉キャンパスの附属図書館L棟の屋上に設置されています。鐘の上部にはラテン語で「つねに、より高きものをめざして」を意味する“AD ALTIORA SEMPER”の語が刻まれています。

千葉大学マスコット

千葉大学創立70周年記念事業をきっかけに誕生しました。デザインは張益準准教授（デザイン・リサーチ・インスティテュート）によるものです。マスコットの顔は各キャンパスの形になっていて、「ニシ」は西千葉キャンパス、「イノ」は亥鼻キャンパス、「マツ」は松戸キャンパス、「スミ」は墨田サテライトキャンパスの形をしています。



さらなる価値創造の基盤構築のための資本注入



外的環境(経済状況、技術の変化、社会課題、環境問題)

アウトプット

- ・ 科研費等獲得件数 1,404件
 - ・ 科研費等獲得額 2,905,764千円
 - ・ Top10%ジャーナル論文数 821本※
 - ・ 国際共著論文数 2,821本※
- ※ 過去5年分実績

アウトカム

→ 世界レベルでの研究推進



- ・ 共同研究受入件数 457件
- ・ 共同研究受入金額 1,324,305千円
- ・ 受託研究受入件数 815件
- ・ 受託研究受入金額 4,864,027千円
- ・ 特許出願件数 145件
- ・ 知的財産権等収入 47,079,616円

→ 研究成果に基づく革新的・持続的イノベーションの創出 企業の幅広いニーズに合わせた共同研究の実施



- ・ 学位授与者数 3,549人
- ・ 外国人学生数 1,773人
- ・ 日本人学生の留学・派遣数 2,097人
- ・ 外国人研究員の受入れ数 553人
- ・ 教職員の海外派遣者数 1,326人
- ・ 入学志願者数(一般選抜) 11,553人(国立大学1位)

→ 社会的ニーズに対応した高度な人材育成



- ・ 令和5年度経常費用 864億円
教育経費(37)、研究経費(47)、
診療経費(326)、受託研究費等(42)、
教育研究支援経費(14)、人件費(372)、
一般管理費(24)、その他(2)
- ・ 当期総損失 21億円

→ 多様な財源による収益の獲得



- ・ 新入院患者数 20,713人
- ・ 地元企業との包括的連携協定等を締結
- ・ 学生、金融機関、行政、地元事業者による環境保全活動

→ 地域への貢献



SDGsへの取組を推進

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際社会共通の目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標で構成されています。千葉大学では、SDGsの目標それぞれを達成するための取組を推進しています。



研究推進 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業

Program for Forming Japan's Peak Research Universities (J-PEAKS)



J-PEAKS 03.1

千葉大学は、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」において、10年間の経営戦略である「研究力の向上戦略」及び同戦略実現に向けた人材や研究基盤等の整備に係る5年間の「研究力向上計画」を提案し、令和5年12月に採択されました。J-PEAKSは、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした経営戦略の下、他大学との連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力強化を図る環境整備を支援することにより、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的としています。

大学改革そのものと言える幅広い取組が含まれる同戦略及び計画を、効率的・効果的に遂行し、全学への横展開、本学全体の中長期的な発展に繋げていくため、学長のリーダーシップの下での全学的推進体制を実現する「NEXT Decennium^{注1)} 研究戦略推進本部」及び「NEXT Decennium 研究戦略推進会議」を令和6年5月1日に設置し、大学ビジョンの実現に向けて取り組んでいます。J-PEAKSの取組と併せて、令和5年4月に採択された「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」により柏の葉キャンパスに新しく整備される「千葉大学 Biohealth Open Innovation Hub」(令和6年度末竣工予定)の活用も推進します。

注1) NEXT Decennium:「次の10年間」という意味

10年後の大学ビジョン

“世界に冠たる千葉大学へ”という高い目標に基づく「10年後の大学ビジョン」として、“強みや特色ある研

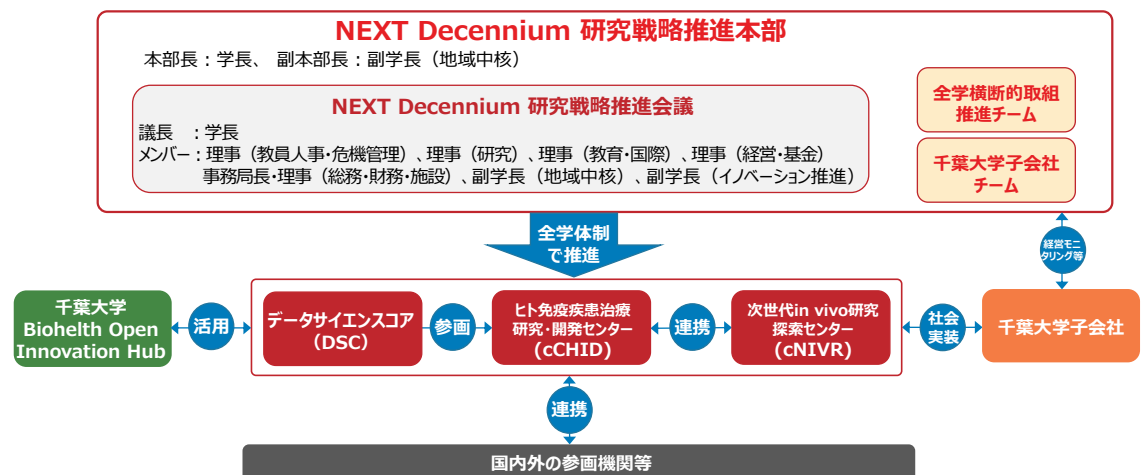
究領域において、学び、研究し、イノベーションを創出する場として、国内外の学生や研究者に選ばれる大学”を掲げました。この大学ビジョン実現に向け、世界的卓越性を追求し、千葉大学における強みや特色ある以下の研究領域を重点的に強化するとともに、イノベーション創出を加速します。そして、それらの取組を全学的に横展開し、本学全体の中長期的な発展を目指します。

【強みや特色ある研究領域】

(i) 免疫学・ワクチン学研究、(ii) 予防医学研究、(iii) 地球観測ビッグデータ統合解析研究、(iv) ニュートリノが拓くマルチメッセンジャー天文学研究

主な具体的取組

- データサイエンスコア (DSC) の設置
- ヒト免疫疾患治療研究・開発センター (cCHID) の設置
- 次世代in vivo研究探索センター (cNIVR) の設置
- 千葉大学を核としたイノベーション・エコシステムの構築 (本学出資の株式会社の設立等)
- 研究者及び研究支援人材の育成やキャリアパスの構築等
- 以下の参画機関をはじめとする国内外の大学・研究機関との連携の深化・拡大
(参画機関) 東京大学、筑波大学、東京理科大学生命医科学研究所、理化学研究所、量子科学技術研究開発機構 (QST)、Center for Mucosal Immunology, Allergy and Vaccine (cMAV) and Center for Microbiome Innovation (CMI), University of California, San Diego



ビジョン「安心で体に優しい粘膜ワクチンが命と生活を守る」
 ミッション「痛みと不安がない粘膜ワクチンの創出」

cSIMVa:シーシンバ(拠点長・清野宏)は、令和3年6月に閣議決定された「ワクチン開発・生産体制強化戦略」に基づき、日本医療研究開発機構 先進的研究開発戦略センター (AMED SCARDA) が主導する「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」のシナジー拠点として、令和4年10月に設立されました。持続可能な粘膜ワクチン開発を推進するために、国内の6研究機関と13企業とで包括的な連携協定を締結し、さらにカリフォルニア大学サンディエゴ校、ラ・ホヤ免疫学研究所およびガーナ国立ワクチン研究所との国際的な開発体制を整え、有効かつ安全・安心な粘膜ワクチンの実用化を目指しています。

粘膜ワクチン研究開発体制

現在主流の注射型ワクチンは、血清IgG抗体の産生により体内に免疫を誘導し、疾病の発症や重症化を予防しますが、病原体の侵入を防ぎ、感染そのものを阻止することはできません。また、接種時の痛みや腫れ、発熱などの副反応に加え、医療従事者や医療機関の確保なども課題となっています。一方、本拠点が研究開発を進める粘膜ワクチンは、粘膜免疫抗体(分泌型IgA抗体)と血清IgG抗体の両方を誘導することで、粘膜面での病原体侵入を防ぎ、「感染阻止」と「重症化回避」の2つの効果を併せ持つ「真の意味での予防ワクチン」となることが期待されています(図1)。

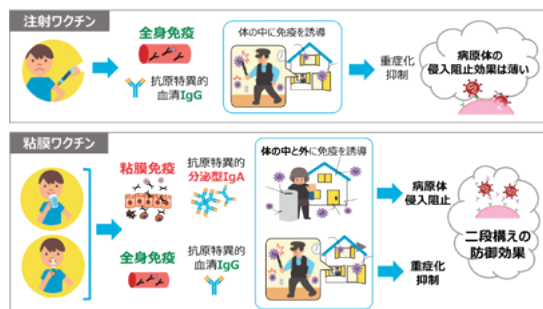


図1 粘膜免疫システムを駆使したワクチン開発戦略

特に、呼吸器感染症をターゲットとした噴霧型経鼻ワクチンや、腸管感染症予防のための舌下型や飲用型経口ワクチンを中心に研究開発を進めています。これらの粘膜ワクチンは自己接種も可能であるため、医療資源の負担を軽減し、迅速かつ大規模なワクチン接

種体制の構築に貢献できると考えられます。cSIMVaでは、所属する研究者を「統合的循環型三層戦略的研究計画(iTSP)」に配置し、ボトムアップによるシーズ探索から実用化に向かうシームレスな出口戦略を推進しています(図2)。iTSPは三層で構成されていますが、各層が連携してその課題解決を行っています。

- ①知識基盤: ヒト粘膜免疫の理解に向けたその誘導機序および免疫記憶維持メカニズムの解明
- ②技術基盤: AI・データサイエンスなどを駆使したワクチン抗原やアジュバントの最適化による粘膜ワクチン候補の開発
- ③技術統合: 開発された粘膜ワクチン・アジュバント候補のヒトPOC(有効性の確認)と治験の推進



図2 統合的循環型三層戦略的研究計画(iTSP)

次世代を担う人材育成

令和5年度、大学院医学薬学府先端医学薬学専攻内に新設された「ワクチン学・感染症学コース」に協力し、cSIMVaのPIが講師を務めました。本コースでは、ワクチン学専門人材の育成を目指し、免疫学・感染症学だけでなく、医療経済学、統計学、臨床試験学、AI創薬学、医療データサイエンス医科学など、幅広い分野を横断的に学修します。さらに、ワクチン開発におけるイノベーション促進・異分野融合や大胆な発想の研究を支援するために、千葉大学内の若手教員、ポスドク、大学院生、技術職員など幅広い層を対象に、研究グラント「cSIMVaワクチンチャレンジ」を創設しました。また令和6年度から、中高生・大学生を対象に粘膜免疫学・粘膜ワクチン学に対する理解を深めることを目的とした体験実習の受け入れを開始しました。今後もこれらのプログラムを継続・発展させ、ワクチンイノベーションの推進、グローバルで多様なワクチン人材の輩出に貢献します。



学際的先端研究及び価値を創造するイノベーション研究拠点

千葉大学では、令和3年7月に千葉大学ビジョンを策定し、研究については国際頭脳循環の中核として世界最先端の研究を展開することを目的とし、以下の4つの戦略を掲げています。

1. 学問の多様性を尊重し独創的な研究を推進
2. 学際研究領域を開拓する世界水準の学術研究を推進
3. 新たな価値を創造するイノベティブな研究を推進
4. 国際高等研究基幹による戦略的な研究教員組織を構築

第4期中期目標・計画期間(令和4~9年度)では、上述の千葉大学ビジョンに基づき、学際的先端研究及び価値を創造するイノベーション研究の拠点として、国際高等研究基幹(Institute for Advanced Academic Research: IAAR)を設置しました。

IAARでは世界最先端の研究を展開することを目的として、それぞれの分野において世界と伍する先鋭的研究を戦略的に取り上げ支援します。併せて、研究の進展を通じて、中堅・若手研究者の育成を行います。

「千葉大学若手研究者キャリアアップ支援制度」の整備・充実

IAARではこれまで支援してきた中堅・若手研究者のさらなる飛躍を支えるべく、引き続き研究環境の整備を行っています。下図のような、本学独自の支援と外部機関プログラムとを有機的に組み合わせた若手研究者キャリアアップ支援制度の整備・充実を図り、キャリアパスを可視化するとともにシームレスな支援を行っています。独自の支援である、「若手研究者スタート支援」は、優秀な博士前期課程等の学生を対象に、早期に学修と研究活動に専念できる環境を作れるよう、生活費を支給するプログラムです。また、博士後期課

程を支援するJST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の修了者などを対象とした教員公募により、優秀な若手研究者を特任助教として採用したり、将来有望な研究者をテニュアトラック准教授として採用しています。さらに業績を挙げた研究者にはIAAR所属のテニュア研究者、ゆくゆくは研究支援プログラムで支援する研究計画や外部の大型競争的資金等の推進リーダーとなり、中堅・若手研究者を雇用できる循環システムを構築しています。このようなキャリアパスを可視化し、研究者を育成・支援しています。

研究支援プログラム

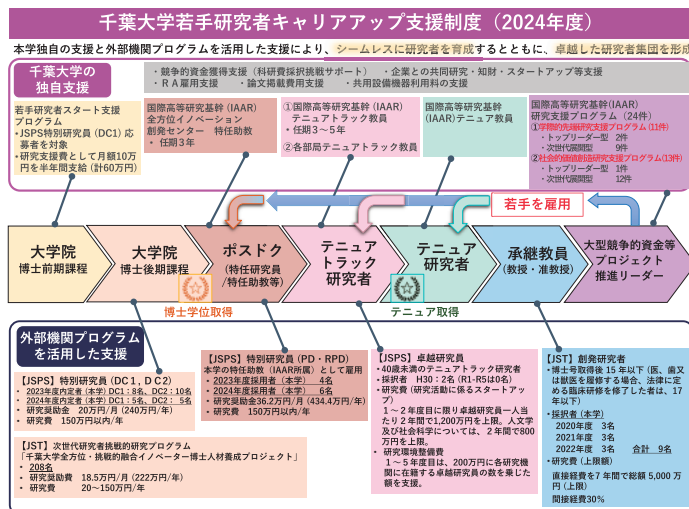
IAARは、学問の多様性を尊重し、学際領域の開拓並びに新たな価値を創造するイノベーション創出を推進します。社会・経済の発展を妨げる課題を解決するために、当該分野で飛躍的な研究の進展が期待される研究プロジェクトを支援しています。本プログラムは、千葉大学に所属する研究者が推進する研究を加速・充実させ、大型研究費の獲得や研究拠点の形成を目指すことを目的としています。

01 学際的先端研究支援プログラム

学理・真理を探究し新たな研究領域の開拓を目指す意欲的な研究課題及び基盤的研究の向上に貢献するプログラムを支援します。

02 社会価値創造研究支援プログラム

研究活動によって生まれた成果の社会実装を通じて、新たな未来社会の社会変革をもたらすことを目指す意欲的な研究課題を支援します。これらの課題には、プログラムの推進過程における関連要素技術・装置開発及び社会提言の基盤となる理論構築も含まれ、研究成果に基づく新たな社会価値の創出が期待されます。



学際的先端研究支援プログラム(トップリーダー型)

○ 衛星ビッグデータとデータサイエンスの統合による地球環境・災害予測研究の新展開

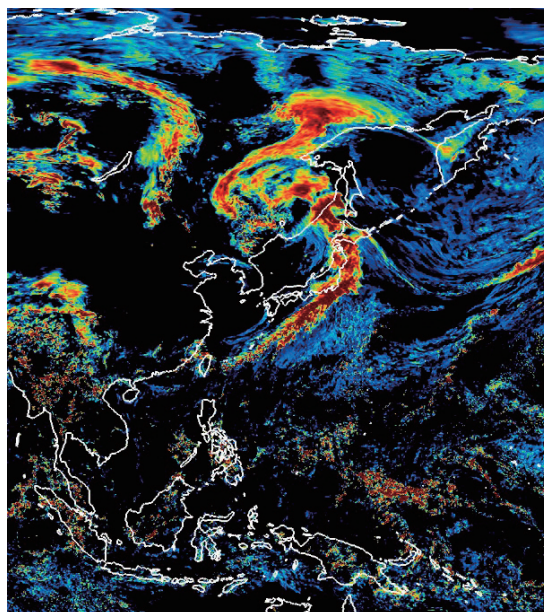
国際高等研究基幹 教授 小槻 峻司

衛星観測ビッグデータを、深層学習を始めとするデータサイエンス技術により統合し、気象環境・災害予測研究の抜本的深化を図る。具体的には、先端AI技術開発により地球観測衛星分野におけるAI拠点の地位を確立すると共に、静止衛星群を統合する独自の陸域生態系監視プロダクトを開発し、静止衛星データ統合研究の国際拠点形成を目指す。更に、膨大な静止衛星データを活用した新しいデータ駆動型降水予測を開発し千葉大発・AI天気予報を実現すると共に、気象制御に向けた挑戦的研究を展開する。

○ ニュートリノが拓くマルチメッセンジャー天文学研究拠点形成

ハドロン宇宙国際研究センター 教授 吉田 滋

ニュートリノ観測能力の大幅な向上を図ると共に、伝統的な電磁波観測(可視光・近赤外・電波望遠鏡による観測)と、ニュートリノとの複合観測を行う新しいアプローチとして、複数の(=マルチ)宇宙からの使者(=メッセンジャー)の観測とデータ解析を行うという意味でマルチメッセンジャー天文学を確立する。本手法を駆使してハドロン宇宙国際研究センターの世界的な中核研究機関としての飛躍を目指す。

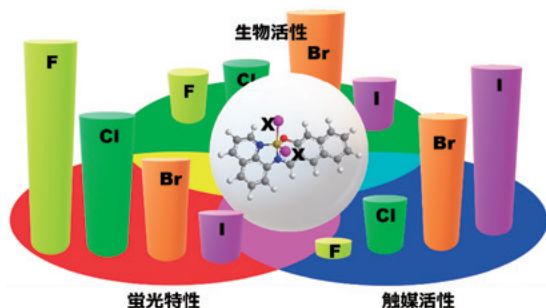


学際的先端研究支援プログラム(次世代展開型)

○ 千葉ハロゲン科学:ハロゲンで繋ぐ分子機能

理学研究院 教授 荒井 孝義

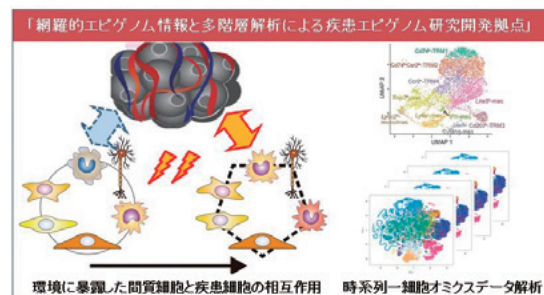
千葉が生産するヨウ素の特性を活かし、診断と治療を同期させるような機能性ハロゲン分子の創製を学際的先端研究として推進する。



○ 網羅的エピゲノム情報と多階層解析による疾患エピゲノム研究開発拠点

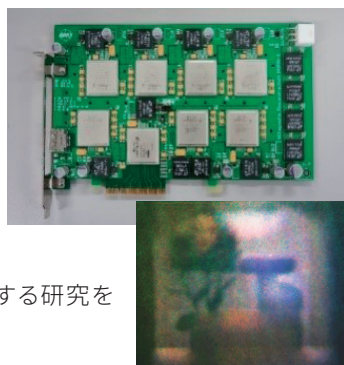
医学研究院 教授 金田 篤志

細胞の運命制御を担うゲノム修飾に対し環境や周囲の細胞がもたらす異常と、それが原因となる疾患の本態を解明する。



○ 高速計算によるホログラフィック映像処理・情報処理
工学研究院 教授 下馬場 朋禄

光波の計算の高速化のためのアルゴリズムおよび計算ハードウェアの開発、ホログラフィックな映像処理・情報処理に関する研究を展開する。



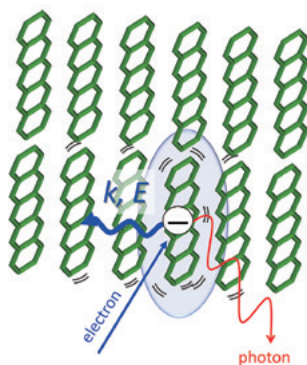
○ 自己組織化メゾテクノロジー
国際高等研究基幹 教授 矢貝 史樹

分子自己組織化によってメゾマテリアルを創出し、タンパク質等の微小物質の操作を可能にする技術「メゾテクノロジー」を世界に先駆けて展開する。



○ 有機半導体の新規電子物性発現を目指した電荷一フォノン相互作用の解明
工学研究院 教授 吉田 弘幸

有機半導体の電荷一フォノン相互作用を独自手法で解明し、従来の限界を超えた有機半導体設計指針を提案する。

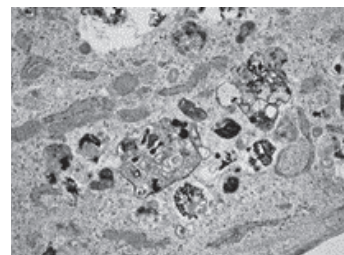


○ 2型自然リンパ球の多様性と臓器特性から切り開く
新たな糖尿病分子基盤と創薬への応用
医学研究院 教授 田中 知明

転写複合体ネットワークから捉える免疫-代謝連関の新しい制御メカニズムと、それに基づく新たな創薬シーズの開発を目指す。

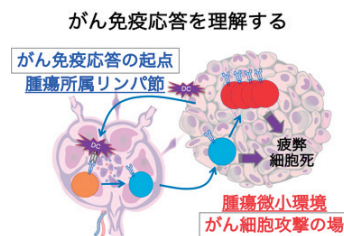
○ 体液プロテオスタシスの分子病態解明
理学研究院 准教授 板倉 英祐

新規細胞外タンパク質分解経路CREDシステムの研究から未開拓分野の発展に挑戦、体液内プロテオスタシスの研究領域を確立し、独創的な新規疾患治療法創出を目指す。



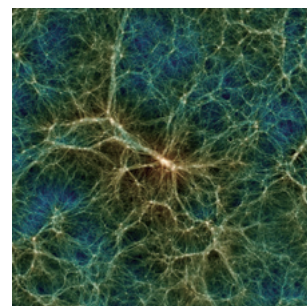
○ T細胞を中心とした抗腫瘍免疫応答の
包括的理解とその治療戦略基盤の創生
医学研究院 教授 木村 元子

腫瘍に対する免疫応答の包括的理解を目指すとともに将来的な治療応用へ向けた研究基盤を創生する。



○ 大規模革新的シミュレーションによる
宇宙天体形成史の統一的解明
情報戦略機構 准教授 石山 智明

「富岳」スーパーコンピュータなどを用いて大規模革新的シミュレーションを行い、宇宙の天体の形成・進化史を統一的に解明する。

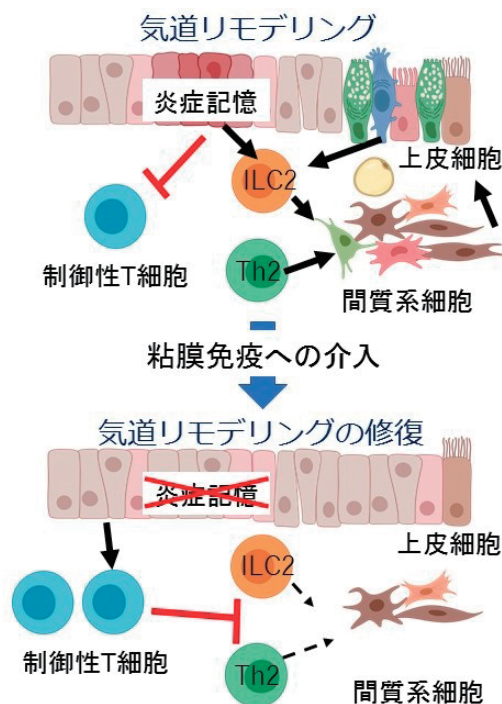


社会価値創造研究支援プログラム(トップリーダー型)

- 未来粘膜ワクチン・アレルギー治療学国際研究拠点における粘膜ワクチン・免疫療法開発
医学研究院 教授 中島 裕史

喘息やアレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患や新型コロナウイルス感染症などの多様な呼吸器感染症を標的とする粘膜ワクチン・免疫療法開発の礎となる基盤研究を推進する。

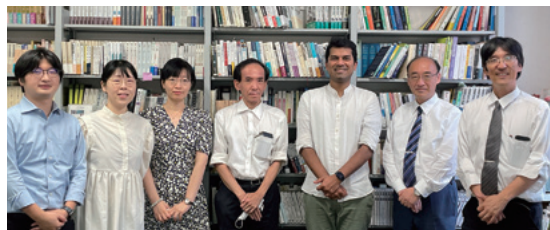
その成果をもとにアレルギー疾患に対する新規粘膜免疫療法を確立し、また感染症に対しては病原体の侵入門戸である粘膜からの感染阻止が期待できる次世代型粘膜ワクチンを未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点(cSIMVa)と共に開発し、臨床応用・社会実装を目指す。



社会価値創造研究支援プログラム(次世代展開型)

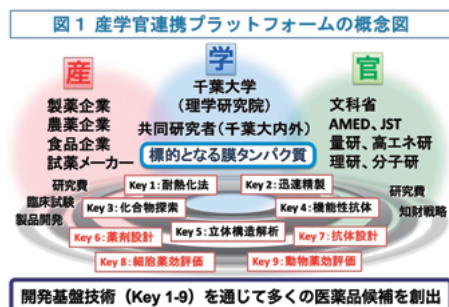
- 公正社会研究の新展開
—ポストコロナ時代の価値意識と公共的ビジョン—
社会科学研究院 教授 水島 治郎

「社会的公正」を理論的・実証的に提示し、社会的な分断と疎外を克服すべく社会提言や発信を展開する。本学の人文社会系を代表する学術拠点の構築を目指す。



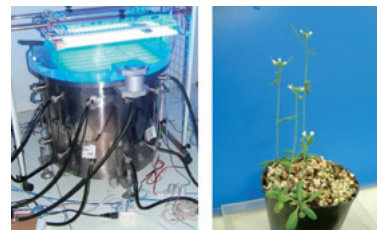
- 膜タンパク質を標的としたアカデミア創薬を加速する革新的基盤技術の確立
理学研究院 教授 村田 武士

「膜たんぱく質を標的としたアカデミア創薬」の加速を目的に、開発技術を高度化するとともに、最新の量子技術を融合した新規基盤技術を開発する。



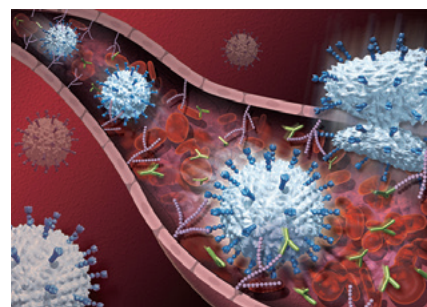
- 宇宙・極限環境等における長期居住のための食料生産・資源循環システムの構築
園芸学研究院 教授 華岡 光正

宇宙空間での生活を想定し、園芸技術を応用した、人類の安全かつ持続的な活動を可能とする資源循環型の食料生産システムの研究開発を行う。



- 免疫関連疾患治療効果を示す抗糖鎖モノクローナル抗体の開発
薬学研究院 教授 川島 博人

免疫関連疾患治療効果を示す抗糖鎖モノクローナル抗体を開発し、大学発創薬の実現に向けた基盤を確立する。



○ 高周波パワーエレクトロニクスが切り拓く
ワイヤレス給電革新

情報学研究院 教授 関屋 大雄

無線給電システムにおける課題、「負荷変動」と「位置ずれ」に対して制御システムなしに一定出力と高効率を達成する高周波多出力ワイヤレス給電システムの研究開発に取り組む。



○ 電気トモグラフィと機械学習との融合による
医療・創薬可視化機器イノベーション

工学研究院 教授 武居 昌宏

電気トモグラフィ技術を医療・看護・創薬などに展開し、臨床・薬剤試験により有効性を実証することを目的とする。



○ 移民難民の社会統合に向けた参加型
アクションリサーチ:教育と福祉を中心に
社会科学研究院 教授 小川 玲子

移民コミュニティと地域の双方の参加による多文化共生社会の実現を目指す。



○ 気候変動時代に応える
レジリエント・ランドスケープ学の創造
園芸学研究院 教授 秋田 典子

日本の国立大学唯一のランドスケープ学専攻を持つ千葉大学がイニシアチブを取り、気候変動時代のレジリエントな空間像という新たな社会価値の創造に取り組む。



○ AI Nursingの開発と社会実装のための
Ethical Platform構築

看護学研究院 教授 諏訪 さゆり

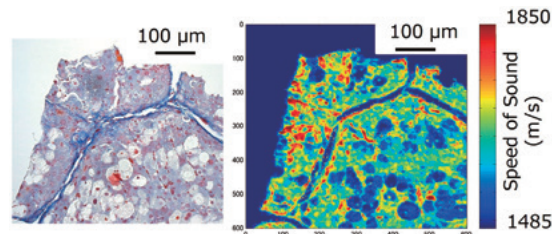
人工知能 (AI) 技術が高齢者とケア提供者に活用され最適なケア実践に役立つよう知識基盤を開発し、その社会実装のための Ethical Platform を構築する。



○ 超音波病理学の創生と
非侵襲マルチスケール定量診断法の確立

フロンティア医工学センター 教授 山口 匡

生体組織の性状と音響特性・機械特性・生化学特性などを関連付けた「超音波病理学を創生」し、「人体に無害な定量診断」を実現する。



○ 認知行動療法を活用した
デジタルヘルスケア技術の開発と有効性検証

子どものこころの発達教育研究センター 教授 清水 栄司

睡眠、うつ、不安、疼痛、摂食、発達特性等の幅広い心身の健康問題の解決のため、認知行動療法を活用したデジタルヘルスケア技術を開発し、社会実装につなげる。



○ 市民と共に学生が学びあう
災害シチズンサイエンス教育プログラムの社会実装
看護学研究院 准教授 石橋 みゆき

「みまもりあいアプリ」を用いた教育プログラムの実証と普及により、災害につよい人とまちをつくる持続可能な社会システムを実装する。

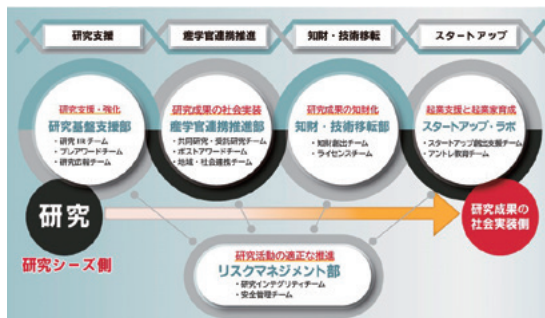


イノベーション創出のための全学的活動拠点



世界規模で社会が激しく変化
する中で、社会

価値創出を持続的に実現していくためには、大学が国際頭脳循環の中核として最先端の研究を弛まず展開し、その成果に基づいた科学技術の進展、そしてその活用によるイノベーション創出が不可欠です。また、イノベーション創出の主体者としてのスタートアップの創出支援、その担い手たるアントレプレナーの養成が益々求められています。千葉大学ではこのような変化
する社会の要請にこたえるために、IMOを中心に研究活動の各フェーズに応じた支援を強化しています。



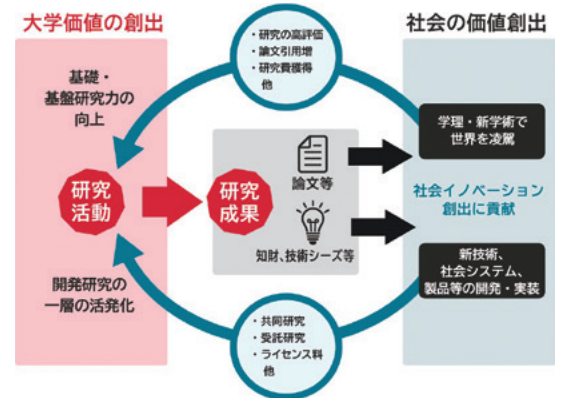
(図1) 研究シーズから社会実装までの段階に応じた支援体制

イノベーション・エコシステムの創出を目指して

IMOはこれまで千葉大学の研究推進・産学官金連携を担ってきた学術研究推進機構の機能と役割をさらに発展させ、基盤となる研究力を一層強化するための支援に加えて、研究成果の社会実装を通じたイノベーション創出に必要な機能をワンルーフに集約した組織です。

専門人材となるURAの配置やイノベーション創出のための機能別に整理・強化された組織により、研究から社会実装までの一貫通貫の活動を展開し、イノベーション・エコシステムの創出に貢献します。研究力強化のための支援の1つとして、科学研究費補助金申請のサポートプログラムを企画・実施し、採択件数・金額の増加など、本学の研究力の向上に貢献しています。また、知財の活用や産学連携機能の強化として、イノベー

ションパートナー制度を新設しました。会員企業と千葉大学は産官学金連携を通じて協働し、イノベーション創出を目指します。令和5年度には会員企業との協働から共同研究講座・部門の設置に至る事例も出るなど、イノベーション創出活動が深化してきています。



研究活動に基づく好循環の実現

(図2) イノベーション・エコシステムの図

インフォグラフィック等を活用した技術移転活動

千葉大学の研究活動を社会実装につなげるため、IMO知財・技術移転部ではIMO産学官連携推進部と協力して定期的に相談会を実施し、発明発掘を進めています。さらに、IMO研究広報チームが作成した、研究成果を絵で解説するインフォグラフィックや研究オウンドメディア'CHIBADAI NEXT'を活用し、大企業から中小企業まで幅広く連携し、研究シーズからの社会実装に取り組んでいます。



(図3) インフォグラフィックの例

研究推進 スタートアップ・ラボ

スタートアップ・ラボの新設

千葉大学は令和2年にイノベーション創出の拠点としてIMOを整備し、さらに令和5年には「スタートアップ支援」と「アントレプレナーシップ教育」の機能強化を目的として「スタートアップ・ラボ」を新設しました。これにより全学横断的なイノベーション創出活動の益々の発展が期待されています。



千葉大スタートアップ・ラボ ホームページ

スタートアップ支援

11学部19大学院のすべての研究領域を対象としてスタートアップ支援を実施しています。

・スタートアップ相談

千葉大学の学生、研究者からスタートアップ創出に関する相談をいつでも受け付けています。研究成果の事業化に悩まれている、あるいは具体的なプランをお持ちで話を聞いてほしい、スタートアップに関係する方であればいつでも歓迎しています。また、既に起業している千葉大学関連スタートアップはもとより、これから関係を構築したい(共同研究、特許ライセンス等を千葉大学と検討している)スタートアップについても、ご相談を受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

・千葉大学独自のGAPファンドプログラムの運営

千葉大学の研究者・大学院生を対象としたGAPファンドプログラム「なのははコンペ」を実施しています。令和5年度で21回目の開催となり、採択者には事業化に向けた研究成果の事業化資金(GAPファンド)を提供しています。仮説検証のためのデータ取得(実験結果、計算結果)、試作品製作、ビジネスモデルのブラッシュアップ等を進めるための費用等を助成します。また助成期間中にスタートアップ・ラボが監修するアクセラレーションプログラムを受講することができます。

・学生スタートアップ支援事業

起業に関心のある千葉大学の学生を対象として、大学の枠やエリアを越えた活動の場を提供しています。アントレプレナーシップを涵養(かんよう)するととも

に、将来的な千葉大学発スタートアップ創出につながることを期待しています。



なのはなコンペと学生スタートアップ支援事業の合同報告会(DemoDay 2024)の様子
地域金融機関のご支援のもと実施しています。

アントレプレナーシップ教育

・4つのアントレプレナーシップ教育講義

大学院生向けにアントレプレナーシップ教育講義を開講しています。座学の「スタートアップ概論A」、「スタートアップ概論B」、演習科目である「スタートアップ・トレーニングⅠ」、「スタートアップ・トレーニングⅡ」の4つの科目を開講しています。



・高校生起業体験プログラム「TOKKA」



起業体験プログラム「TOKKA(トッカ)」は、千葉県に在学・在住する高校生が、ビジネスの立ち上げを経験できる、体験型の教育プログラムです。高校生には活動経費の支給と、社会人メンターの支援が提供されます。県内の地域課題や高校生ならではの視点で発掘した課題を解決するサービスや試作品の作成が行われました(令和5年度)。その他に、千葉県と連携してアントレプレナーシップ教材の開発や近隣の小中高等学校と連携した授業実践を行っています。スタートアップ・ラボは地域と共に、若年層向けアントレプレナーシップ教育に取り組んでいます。(これらの取り組みは文部科学省・JSTのアントレプレナーシップ教育の機会を高校生等へと拡大させる事業「EDGE-PRIME Initiative」の一環として実施されています。)



千葉大学は、国際教養学部を中心に成果を上げてきている千葉大学のグローバル人材育成戦略を更に拡大展開するプランである「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”(Enhanced Network for Global Innovative Education)」を策定し、2020年度から新たに実施しています。このENGINEの推進により、発信力・自己表現力・コミュニケーション力を備えた世界で活躍する人材を育成します。

ENGINEの取組

ENGINEでは、“学部・大学院生の全員留学”を目指して、留学プログラムや留学支援体制を強化するとともに、外国人教員の増員等による教育改革や留学中でも科目履修が継続出来る教育環境整備等を行います。具体的には、次の取組を行います。

01 海外留学環境の充実

国際的な感覚を身に付けることを主な目的とし、学部学生・大学院生ともに、留学を必修化します。留学目的や語学力に合わせた多様なプログラムを全学及び部局で設置するとともに、留学支援体制を強化し、プログラム実施を支援します。

02 グローバル教育の充実

世界のコミュニケーションツールである英語を、多角的に学べる環境を提供します。なお、リーディングとライティングは、論文レベルの授業を開講し、リスニングとスピーキングは、イングリッシュ・コミュニケーションを拡充し、実践型教育を実施します。

03 スマートラーニングの実践

eラーニングを活用した教育システムである「スマートラーニング」により、いつでもどこでも学べる環境の整備を行います。



国際社会の様々な分野において真のリーダーとなるグローバル人材の育成



Ⅰ 教育・グローバル 全学副専攻プログラム・バンチプログラム

千葉大学では、総合大学として人文社会科学・自然科学・生命科学のあらゆる専門分野の教育研究が行われている強みを生かし、普遍教育科目や学部開放科目等において、所属学部によらず多様な分野の授業科目を履修することができる履修体系をとっています。このほかにも、豊富なリソースを活用し、学部の垣根を越えて、現代的なイシュー（課題）について体系的かつ学際的に学ぶことができるタイプの履修プログラムを、学部生が履修できるように副専攻やバンチプログラムとして提供しています。さらに、履修により身に付けた知識・スキルを電子的に証明する仕組み（オープンバッジ）も合わせて整備を進めています。

全学副専攻プログラム

所属学部での学びに加えて、自分の興味関心のある分野について、体系的に学ぶことができるプログラムです。修了（取得）要件を満たした場合には、要件に応じて修了証書もしくは履修証明書が発行されます（要件はプログラムごとに異なります）。また、オープンバッジによるデジタル証明書の発行も行っています。



国際日本学

グローバル社会で活躍するための素養を身につけることを目的とした全学副専攻プログラムです。普遍教育科目および専門教育科目を横断して構成されています。主専攻である学部・大学院での専門性をもちながら国際日本学の指定科目を所定の修了要件に基づいて履修することで、日本文化や異文化への理解を深め、将来、グローバル人材として活躍するために必要となる知識や技能、経験をバランスよく身につけることができます。



ローカル・イノベーション学

学生の皆さんの主専攻である各学部での専門性を持ちながら、地域産業・イノベーションや地域・コミュニティに関する幅広い教養と、地域再生の知識、実践力を身に付ける全学副専攻プログラムです。学生の皆さんが、NPOや大学、自治体、企業などの立場から地域産業をイノベーションしたり、地域再生のために活躍できる人材となることを目指しています。



数理・データサイエンス教育プログラム

数理・データサイエンスに関する基礎的な教養をベースに、各学部における専門的な数理・データサイエンスを極めることにより、数理・データサイエンスに係る知識を活用し、社会の問題を解決できる人材を育成します。「データサイエンティストコース」「データエンジニアコース」「データアナリストコース」の3コース及び各コースの内容を横断する「数理・データサイエンス教育プログラム」を設けています。



環境サステナビリティ実践学

環境に関する知識やマインドを涵養し、持続可能な社会の推進に貢献することができる「環境課題解決人材」を育成することを目的とした全学副専攻プログラムです。環境課題解決人材として活躍するために必要な「環境に関する課題を発見する力」「課題解決のための立案力」「解決策を実行するための実践力」を培い、人類や社会が直面する環境に関する課題の解決に向けて、主体的に行動できる人材となることを目指しています。

バンチプログラム

イシューについて体系的に学修できるよう授業科目を組み合わせているほか、小さなまとまり（6-10単位程度）とすることでより学びやすい仕組みとしたものです。各プログラムの要件を満たした場合には、オープンバッジが発行されます。今後もイシューに基づいたプログラムを追加していきます。



国際日本学



地域づくり



地域イノベーション



地域実践



数理・データサイエンス・AI基礎コア



環境サステナビリティ実践学

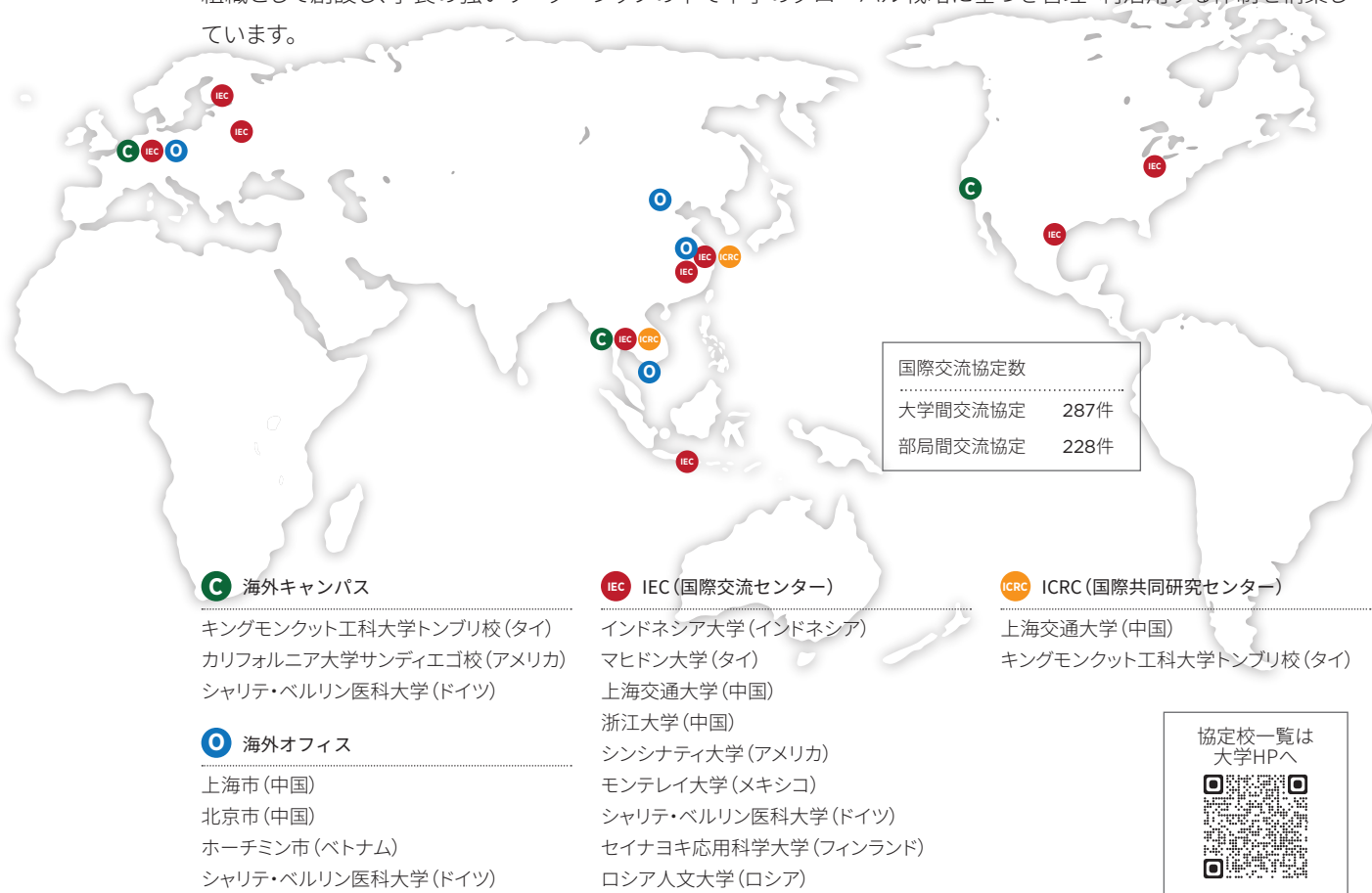


日本語学習支援実践プログラム

教育・グローバル 海外拠点・交流協定校

戦略的海外拠点の形成とグローバル・キャンパス推進基幹の設置

千葉大学は、世界を先導する教育・研究を促進する大学グローバル・キャンパスを目指し、戦略的な拠点形成を推進しています。これらの拠点を統括してマネジメントする「グローバル・キャンパス推進基幹」を学長直轄の運営組織として創設し、学長の強いリーダーシップの下で本学のグローバル戦略に基づき管理・利活用する体制を構築しています。



サンディエゴ・キャンパス

(カリフォルニア大学サンディエゴ校)

「国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究拠点形成事業」の米国拠点として設置されました。このサンディエゴ研究センターと、亥鼻キャンパスに設置した千葉研究センターを中心に世界最先端の国際共同研究やグローバル人材の育成を推進しています。

バンコク・キャンパス

(キングモンクット工科大学トンブリ校)

日本・タイ初のソーシャル・デザイン共同研究機関としてキングモンクット工科大学トンブリ校に設置したソーシャル・デザイン・インスティテュート (SDI) を中心に、ソーシャル・デザインの学際的な実践教育・研究の拠点として機能しています。

ベルリン・キャンパス

(シャリテ・ベルリン医科大学)

「スーパーグローバル大学創成支援事業」の一環として、シャリテ・ベルリン医科大学内に設置されました。本学の公衆衛生やグローバルヘルスなど、医学分野を中心とした教育・研究活動を展開し、本学欧州拠点として交流を行っています。

千葉大学・上海交通大学国際共同研究センター

(ICRC)

千葉大学と上海交通大学両キャンパスに設置され、両大学から教職員及び大学院生を結集して、大学間学術交流、先端的・先導的な学術研究、産学連携による研究開発及び有能な若手研究人材を育成するとともに、学術研究の国際交流を促進しています。

教育・グローバル 大学の世界展開力強化事業

世界展開力強化事業とは

大学の世界展開力強化事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において平成23年度から開始された事業です。

01 「未来人材」育成に向けた新教育プラットフォーム Blended Mobility Project (BMX) で生み出す「Society5.0人材」の育成とそのインフラの創出



2018年度より本格的に導入したCOILと呼ばれるオンライン国際協働学習を発展させ、国内連携大学（関西大学・東北大学）と米国の大学と共に、Society5.0社会で活躍する人材育成を目的に新しい国際教育を創りはじめました。デジタル化・オンライン化した教育と渡航留学活動とを有機的に組み合わせた共修教育が特徴で、異なる言語、多様な背景を持つ人々と共通の課題に向き合い、共に学び、共に成長するプログラムです。

02 何ができる？チームで体験し考えようUHC グローバル地域ケアIPEプラス (Global & Regional Interprofessional Education Plus Program GRIP)



日・印・英・豪という異なる社会課題を抱える国の大学と連携し、お互いの国で課題を抱える地域や支援者を訪問します。学部・研究科混成のチームを編成し、異なる視点からSDGsの開発目標3「すべての人に健康と福祉を」の実現に向けた解決策の共創を目指します。

事業支援期間：令和4～8年度

03 自身の研究プロジェクトをバックパックに詰め込み、海外に飛び立とう！ ソーシャル・デザイン・イニシアティブ (SDI-A: Social Design Initiative in Asia)



貧困・格差・過疎化・高齢化といった世界が抱える「厄介な社会問題 (Wicked Problem)」を課題とし、複数地域でその課題に取り組む巡廻型実習プログラムです。課題を何度も繰り返すその社会に相応しい解を導き出す、高度かつ反復型デザイン思考で、ソーシャル・デザイナーを育成します。

事業支援期間：令和3～7年度

世界展開力強化事業が前身となったプログラム

04 新たな学びを実現し、専攻を自ら創造できる人材を育成 COIL*を使用した日米ユニーク・プログラム (JUSU)



千葉大学と米国4大学の特色や強みを活かしたユニークな分野で、オンラインを活用しながら、アクティブラーニング型講義を展開します。日米の学生が各専門分野を教え合う双方向協働教育を行うことで、自分の専門にとらわれることのない学びを実現できる人材を育成します。

※COIL：オンライン国際協働学習

05 未来農業のスペシャリストを育成 未来農業に貢献できる 領域横断型人材育成プログラム (FARM)



未来農業は、生産過程に加えて、流通・消費などを含めた「次世代6次産業」を体現するものであるため、海外協定校において食料生産から流通・販売ビジネスまで含めた未来農業を理解でき、これらの共同事業に貢献できる人材を育成します。

06 農学+工学のイノベーション人材を育成 植物環境イノベーションプログラム (CAPE)



植物環境に関わる産業は、第6次産業に第4次産業も加わり進化することが予測できるため、中国・韓国の3大学と連携し、園芸学(農学)と工学の両方の領域に長けた、植物環境のイノベーションを企画・提案・実施できる人材を育成します。

07 中米と未来の生活を考える！ ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム (PULI)



日本の学生がメキシコやパナマの学生とともに世界の都市圏が抱える課題を考え、未来の快適な都市を創造するプログラムです。本学における学習と、海外学生との日本及び中米でのグループディスカッション等を通して、グローバルな視点で課題解決ができる能力を養います。文系・理系の人材が協働し、企業と同じプロセスでプログラムを実施します。

08 ASEANで教育体験！ ツイン型学生派遣プログラム (TWINCLE)



教育学(部)研究科と他学(部)研究科の学生がペアを組んでASEAN諸国を訪問し、現地の高等学校で先生となり、本学で行われる先端科学研究や日本文化についての授業・実験をすることにより、グローバルマインドを持った人材(教員・研究者)を育成します。平成24-28年度事業に採択され、中間、最終評価ともにASEAN諸国との架け橋となる人材の育成事業として「S」評価を獲得しました。大学独自の全学型プログラムとして1,000人を超える学生交流を実現し、現在はオンライン交流プログラムも実施しています。

09 日米欧でデザインを学ぶ！ 大陸間デザイン教育プログラム (CODE)



欧州各国や米国など複数国へ留学して多角的にデザインを学び、派遣先大学の特徴あるデザイン教育を通して将来の産業を創成するグローバルなデザイナーを育成します。早期卒業制度を用いて6年間(学部3.5年+修士2.5年)の学修年限の中で1年間の留学を行います。平成23-27年度事業に採択され、デザインに関わる多様で高度な人材を育成する事業として中間、最終評価ともに「S」評価を獲得しました。現在はデザインコースの独自プログラムとして実施しています。

教育・グローバル 先進科学プログラム / 飛び入学

<https://www.cfs.chiba-u.ac.jp/>

〈文学部〉

〈理学部〉

〈工学部〉

〈園芸学部〉

〈情報・データサイエンス学部〉

先進科学プログラムとは

先進科学プログラムは、高校2年修了後に大学に入学(春入学)または高校3年9月から入学(秋入学)し、早くから科学分野の専門的な勉強を進めることで、将来、独創性の豊かな科学者・研究者になり、世界に羽ばたく若者を育てるものです。プログラムでは1年次から独自の授業を用意しており、選抜された学生は学部学科でのカリキュラムに加えてこれらの授業を履修します。卒業生たちは国内外の大学院で学び、研究機関や民間企業で活躍しています。

7つの分野

・物理学関連分野

物理学は、自然現象の奥にある普遍的な法則を探る学問です。対象は幅広く、素粒子や原子核といったミクロの世界から広大な宇宙空間にまで及びます。自然科学の根幹をなす法則を深く理解し、研究者を目指す学生のためのプログラムです。

・化学関連分野

化学は、日常生活で目にする素材から自然の中の生命体に至るまで、物質や生命の成り立ちや働きを理解するために、様々な物質の構造・性質及び物質相互の反応を研究する学問で、本分野は化学の研究者を目指す学生のためのプログラムです。

・生物学関連分野

生物学は、DNAやタンパク質を用いたミクロレベルの内容から、細胞・個体、生物集団・環境・進化といったマクロレベルの内容までを網羅し、生命の不思議を多

元的に理解する学問です。生物学先進クラスでは、1年次から最新の研究にふれるプログラムを通して、将来の研究者を養成します。

・工学関連分野

工学の多様な研究領域で、これまでにない新分野を開拓できる研究者や技術者を養成するプログラムです。その分野は、建築学、都市工学、デザイン、機械工学、医工学、電気電子工学、物質科学、共生応用化学と多岐に渡ります。

・情報・データサイエンス関連分野

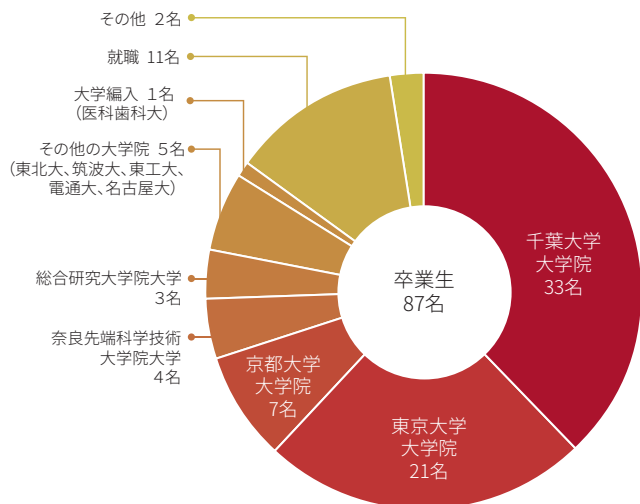
データサイエンスの基礎およびその応用・展開力、さらにはデータサイエンスを支える情報工学技術等を幅広く学ぶことによって、データ分析を通して社会課題を解決するデータサイエンス人材やデータサイエンスの深化を担う研究者・技術者を育成します。

・植物生命科学関連分野

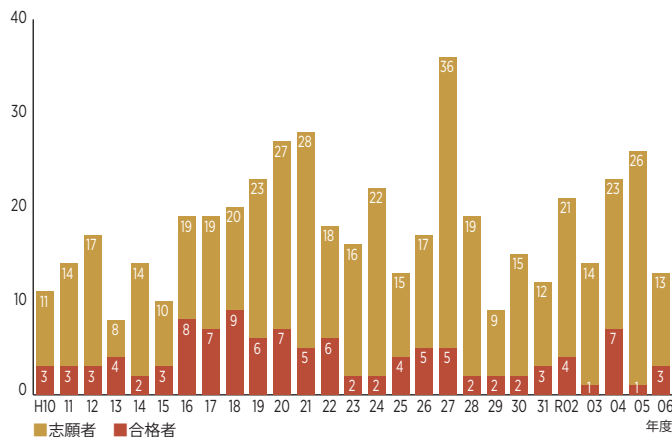
植物生命科学は、植物や微生物などの生命現象や関連する物質の構造や機能を分子レベルで探求する学問です。植物などの生物資源や関連する生体分子を対象として、生命現象のメカニズムや生体分子の機能を化学的・生物学的手法を用いて解明します。

・人間科学関連分野

人間の心や社会・文化を自然科学の手法で学びます。「自分はなぜ人間なのか?」という哲学的な問題を、情報処理の観点から理解したり、物を見て解釈する仕組みを目や脳の機能と関係づけて解明したりするなど、新しい科学を対象とします。



〈卒業時の進路 (令和6年3月末現在)〉



〈志願者数と合格者の推移 (令和6年3月20日現在)〉

教育・グローバル 亥鼻キャンパス高機能化構想と亥鼻IPE

<https://mirai-kikou.chiba-u.jp/>・<https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>

次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点創成のための亥鼻キャンパス高機能化構想

持続可能で、より良い世界を目指す国際目標として、2015年に国連サミットで「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」が設定されました。ここで掲げられた17のゴールの中には、「全ての人に健康と福祉を(ゴール③)」という保健課題と、「質の高い教育をみんなに(ゴール④)」という教育課題が含まれています。医療系3学部を有する千葉大学では、このようなニーズに指導者として対応できる医療人(医師、看護師・保健師・助産師、薬剤師、研究者など)を育成し、社会の期待に応えていくことが急務となっています。このような状況を踏まえ、亥鼻キャンパスでは、「治療学」という新しい学問領域:「予防、診断のみならず治療の理論及び新規治療法の開発を系統的に研究し、グローバルな実践展開をはかる学問」の推進を最重要課題として高機能化を図ることとしています。

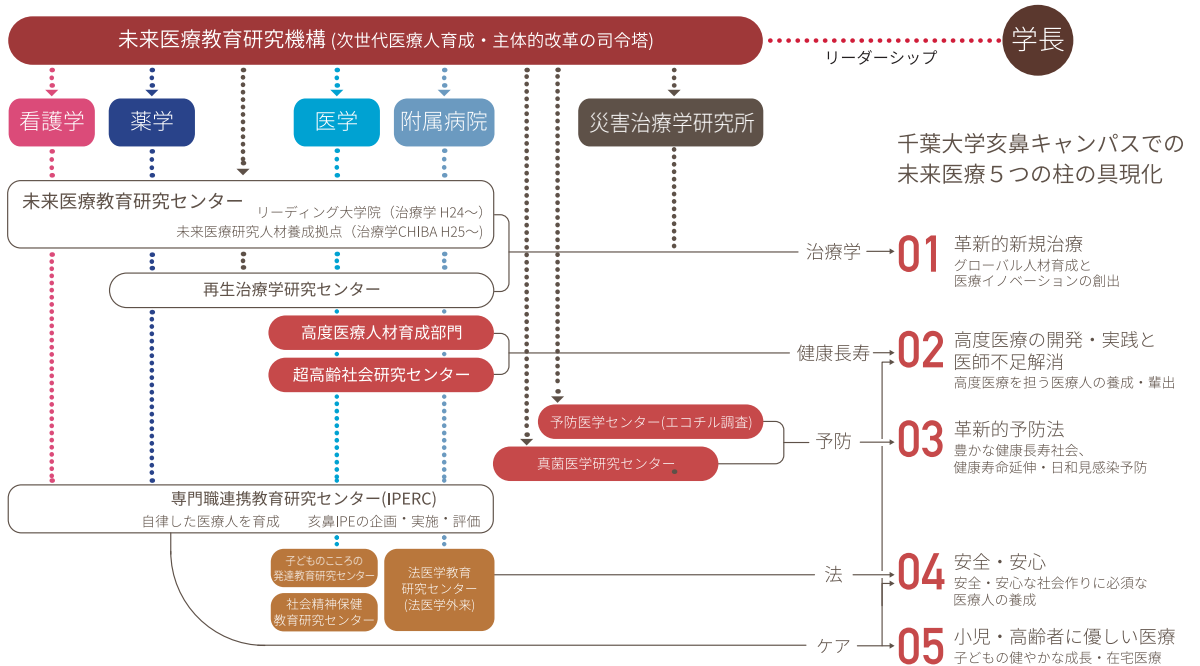
千葉大学は医療系3学部(医学・薬学・看護学)と附属病院が一つのキャンパスに結集した唯一の国立大学であるうえ、災害から人々の健康を守る災害治療学研究所が2021年に設置され、さらに2023年3月には災害治療学研究棟が竣工したという特徴を生かし、亥鼻キャンパスでは、未来医療教育研究機構を司令塔として、医療関連課題のSDGsの達成を目指し、医療イノベーション創出とグローバル化に対応するための教育研究組織改革及びガバナンス改革を強力に加速し、次世代の多様なニーズに応える医療人育成機能強化を果たすとともに、全学に改革を展開します。

全国の医療系大学を先導する亥鼻IPE

亥鼻IPEは、2007年に看護学部・医学部・薬学部の3学部が連携・協働して始まった専門職連携教育プログラムです。2017年からは工学部医工学コースの学生も受講対象に加わり、4学部の必修科目として運営しています。現在、IPEは全国の医療系大学に広がりを見せています。亥鼻IPEは日本のIPEを先導し、多くの実績を積み上げてきました。2015年からは亥鼻キャンパス高機能化構想に組み込まれ、専門職連携教育研究センターを拠点として活動しています。ここでは、他の専門職と連携・協働し、患者やサービス利用者を中心とした診療・ケアを行う自律した医療組織人を育成しています。本プログラムは、医学部附属病院や近隣の病院、地域の診療所、調剤薬局、訪問看護ステーション、障害者施設などの協力を得て、連携協働体験学習を実施しています。この取り組みは、高機能化が進展する亥鼻キャンパスにおいて、専門職同士が信頼関係を構築し、より良い医療を提供するための人材を輩出することに貢献しています。2023年度までに合計3468名が亥鼻IPEの全ての必修科目(Step14までの段階的プログラム)を受講しました。



1年生:グループワーク



コミュニティ・イノベーションオフィス(OCI)の概要

OCIは、千葉大学において地域活性化・地方創生に関する教育・研究とあわせて、社会実装に向けたプロジェクトを推進しています。特に教育分野では、地域PBL型の授業科目を通じて地域人材を育成しているほか、台湾をはじめとした海外交流協定校と連携した教育プログラムを通じて、国際連携も強めています。

県内自治体、地域企業等との地域連携事業

包括連携を締結している県内の横芝光町、長柄町、南房総市、芝山町を中心に、自治体、地域企業、公的機関等からの受託研究を進めています。研究のテーマは、地域産業の振興、観光、健康、移住定住など多岐にわたり、地域活性化に向けた課題解決に学生が挑戦するうえでも生かされています。2018年からは、地域活性化のための研究成果活用型ベンチャー「ミライノラボ」を創設し、学生が地域で継続的に活動するための基盤づくりについても多方面で進めています。

ローカル・イノベーション学による地域人材育成

地域課題解決のための幅広い教養と判断力を総合的に学ぶ全学副専攻プログラム「ローカル・イノベーション学」を運営しています。学生の年次ごとに地域と関わる度合いを変える「グラデーション定着学習」を導入し、副専攻を修了した学生は地域の産業振興や地域志向のプロフェッショナルとして、公務員、コンサルタント、研究者等のキャリアに近づくことができます。さらに、OCI内のインキュベーション機能を活用し、まちづくり会社やNPOなどでのアントレプレナーとしての活躍へとつながります。

千葉の地域から国際連携への展開

千葉大学の目指すグローバル人材育成と連動し、台湾をはじめとした海外交流協定校との国際志向型教育実践への取組を始めました。その一環で、千葉大学

の学生が台湾の大学に留学し、地域課題解決に取り組みながら、地方創生の推進や持続化の地域づくりを実践的に学ぶ科目を開講しています。2021年度には、日本の4大学(千葉大学、高知大学、信州大学、龍谷大学)と台湾の6大学(国立暨南国際大学、国立成功大学、国立中山大学、東海大学、国立高雄科技大学、国立台湾海洋大学)が地方創生に協働して取組む「日台大学地方連携及び社会実践連盟」を発足しました。これらにより、今後も、ローカルとグローバルの融合による地域活性化・地方創生の取組をより一層推進していきます。



南房総市での地域資源の調査



オフグリッド可搬空間EcoCabinを使った地域活性研究(長柄町)



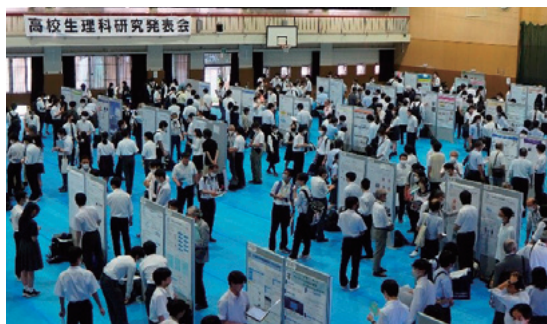
台湾での協働学習における現地視察・インタビュー

Ⅰ 社会貢献・経営 高大連携・高大接続に関する取り組み

本学では、国際未来教育基幹キャビネット高等教育センター高大連携部、高大連携支援室、次世代才能支援室を中心にして、高大連携・高大接続に関する様々な活動を行っています。

高校生理科研究発表会

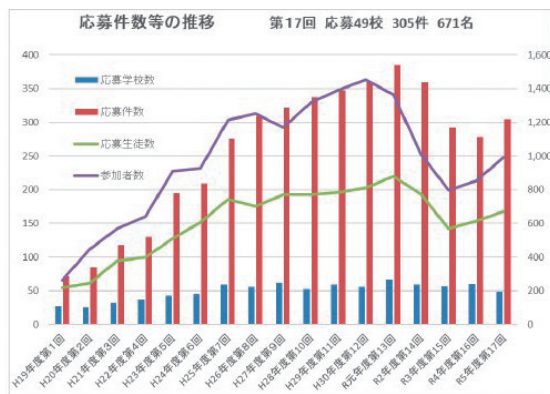
高校生理科研究発表会は、高校生の理科（物理・化学・生物・地学）、数学・情報に関する先進的かつ創造的な研究活動とその発表を支援する目的で実施しています。平成19年度から本学が主催しており、令和5年度で17回目の開催となりました。この発表会は、高校生が日頃の研究活動の成果を発表する絶好の機会になっています。



会場風景：千葉大学体育館（令和5年度：第17回）

応募校数、発表件数、発表生徒数は、第1回の27校、72件、218名から年々増加し、第13回には、67校、385件、878名に達しました。招待者や一般参加者を含めた総数は1000名を超え、国内を代表する大きな発表会に成長しています。

第14回、第15回はコロナ禍のためオンラインで開催し、第16回は対面にて口頭発表をするとともに、発表動画資料をオンライン上に掲示するハイブリッド型にて実施しました。第17回はコロナ禍以前のポスター発表の形式で実施し、全国から49校、305件671名の応募がありました。



未来の世界を創造する研究人財の養成 ASCENT-6E

予測不可能な未来を切り拓くことのできる課題解決型科学技術人財の養成を目的として、令和2年度から、高校生に大学レベルの高度な研究指導を行うASCENTプログラムを実施し、文部科学大臣表彰受賞者など優秀な学生を多数輩出してきました。令和6年度、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施する「次世代科学技術チャレンジプログラム（STELLAプログラム）」に、本学が提案した企画「【ASCENT-6E】：Six Evolutions – Encourage, Enrich, Endeavor, Educate, Embody, Expand – of ASCENT program」が採択されました。ASCENT-6Eでは、ASCENTプログラムをはじめ、本学の長年にわたる高大連携や飛び入学の実績を活用しつつ、データサイエンス教育やアントレプレナー教育を強化することにより、未来の世界を創造する研究人財の養成に継続して取り組んでいきます。



世界に認められた学生主体の環境への取り組み

01 環境マネジメントシステムの国際規格の認証取得

千葉大学は、環境マネジメントシステム (EMS) の国際規格であるISO14001を2005年に取得して以来、地域社会に開かれた形でEMSを運用していくことを「環境・エネルギー方針」の柱の1つとして掲げています。さらに、EMSを学生主体で運用することを教育の一環としており、2003年に設立された「環境ISO学生委員会」が、学内・地域社会でEMSや様々な環境に関する活動とともに、持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献するための活動を積極的に行っています。



全学部の学生が所属する学生団体

02 「環境ISO学生委員会」が主体となって大学のシステムを構築・運用

学生委員会は、「環境マネジメントシステム実習」の受講生で構成され、毎年200名以上の学生 (1~3年生) が活動しています。学生たちはISO運用に欠かせない内部監査や基礎研修などの中核業務に携わっているほか、20以上の班やプロジェクトに分かれ、環境やSDGsに関する啓発活動、教育活動、緑化美化活動、サステナビリティレポートの編集などを行っています。委員会では学生自らが立案し、企画書を書き、仲間と共に実行し、結果を振り返り、報告書にまとめ、次に活かすという、実務の基本を学びながら実践しています。3年間活動すると「千葉大学環境エネルギーマネジメント実務士」の資格が大学から与えられ、就職活動でも活用できます。この学生主体の取り組みが世界的にも評価され、数々の賞を受賞しました。



環境ISO内部監査において監査を行う学生委員

03 企業との連携プロジェクトによるSDGs 活動と人材育成

近年は、株式会社京葉銀行や株式会社ZOZOをはじめ、複数の民間企業や自治体と協同したプロジェクトを多数展開しており、地域の子もたちに対する環境教育や企業向けセミナー、自然保護活動、大規模な環境イベントの開催、海外の大学との交流など、活動の幅が大きく広がっています。



千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト

社会貢献・経営 ダイバーシティ推進の取り組み

<https://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/>

ダイバーシティ推進部門が実施する事業・支援

ダイバーシティ推進のための啓発活動として、差別や偏見につながる無意識のバイアスについて学ぶセミナーや、育児や介護に役立つセミナー（病児ケア勉強会、介護に役立つセミナー）等を開催・紹介しています。また、本学教職員のワーク・ライフ・バランスを支援するため、各種制度（ベビーシッター利用料補助制度、病後児保育支援制度、研究支援要員配置制度）を設け、育児や介護中でも活躍できる環境を整備しています。また、女性が気軽に利用できる専用休憩室や、育児、



女性専用休憩室
(西千葉キャンパス 国際教育センター1F)

介護、ジェンダー、ダイバーシティ等に関する書籍を揃えた資料ライブラリーを整備し、希望者に貸出を行っています。

グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業の概要

令和2年度に、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に選定されました。6年間の事業として、若手研究者や女性研究者のグローバルな研究活動を促進する支援制度を新設・拡充し、優秀な女性研究者の上位職へのキャリアパスを



令和3年度発行
千葉大学研究者ロールモデル集

研究活動を促進する支援制度を新設・拡充し、優秀な女性研究者の上位職へのキャリアパスを保証する仕組みづくりを進めています。Webサイトやニューズレターでは最新情報を発信しています。

千葉大学DEIB宣言・基本方針の制定に向けて

さらなる多様性(Diversity)・公正性(Equity)・包摂性(Inclusion)を推進し、帰属感(Belonging)を感じられる大学コミュニティを育むため、千葉大学DEIB宣言・基本方針の制定に向けた取り組みを始めています。取り組みのひとつとして、千葉大学マスコットキャラクターDEIBバージョンを作成しました。



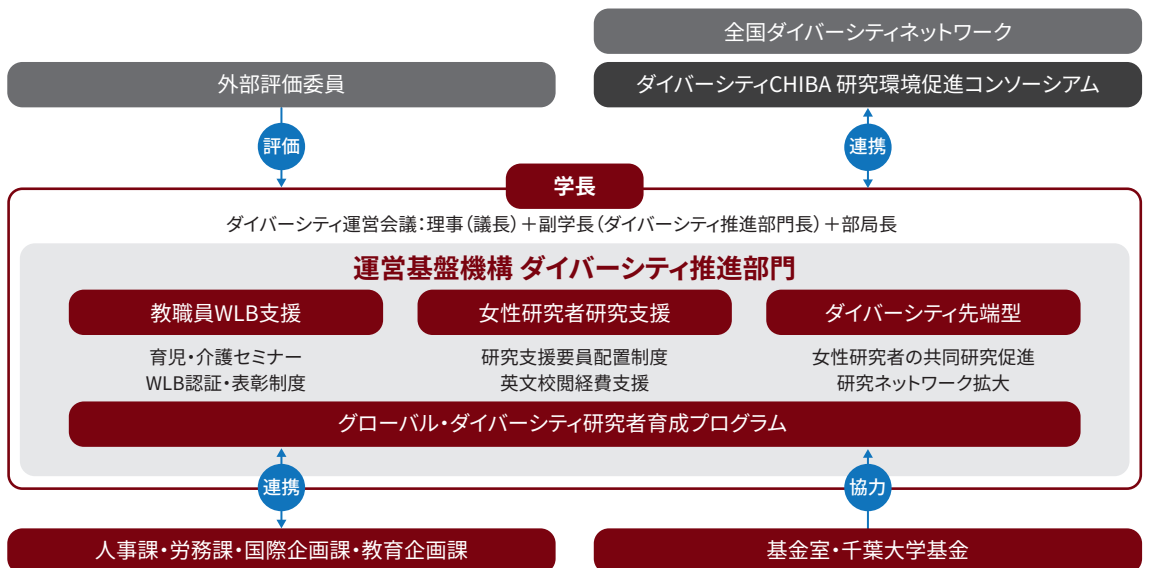
千葉大学はDEIBを推進します！

※DEIB=Diversity, Equity, Inclusion and Belonging

千葉大学マスコットキャラクターDEIBバージョン

事業運営体制(下図)

グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業は、学長のリーダーシップのもと、ダイバーシティ推進部門が中心となって、学内関係機関と連携しながら取り組みを進めています。取り組みの成果は、外部評価委員の評価を受けるとともに、女性研究者活躍促進に賛同する大学等が参加する「全国ダイバーシティネットワーク」や、千葉県内や近隣地域の研究機関等により構成されている「ダイバーシティCHIBA研究環境促進コンソーシアム」を通じて、学外にも発信していきます。



I 組織・施設の整備

04.1

情報・データサイエンス学部／学府を設置



令和6年4月、新たに情報・データサイエンス学部／学府を設置しました。

私たちが目指すべき社会実現のため、高度に発展した情報技術を活用して、社会全体の様々なデータ(ビッグデータ)を収集・分析し、的確で迅速な意思決定を行うことが、政策決定から企業の経営戦略策定、さらには日常生活に至る社会のあらゆる場面において求められています。その一方で、国内の情報技術の活用状況は諸外国に比較して立ち遅れており、データ分析を根拠とした戦略策定や意思決定を支援するデータサイエンス人材の育成が急務とされています。

情報・データサイエンス学部／学府は、千葉大学全体の広範な専門分野との緊密な連携のもと、データ分

析を通して現象の本質を明らかにする専門性(データサイエンス力)、データの収集・処理・分析を担う情報工学に係る専門性(データエンジニアリング力)、データサイエンスを社会に応用して価値創造を図る専門性(データサイエンス展開力)を涵養するカリキュラムを提供し、もってSociety 5.0の実現を担う実践的データサイエンス人材や、データサイエンスにおけるイノベーションを先導しうる研究者・技術者の育成に寄与します。



ソーシャル・デザイン・インスティテュートの設置

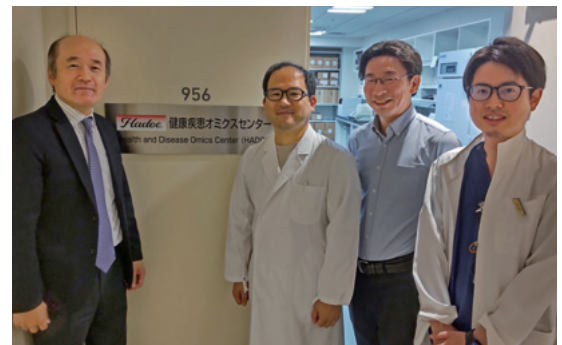
2024年4月1日、ソーシャル・デザイン・インスティテュート(Social Design Institute、略称SDI)が発足しました。本研究機関は国際共同研究センターとして、タイ王国のKing Mongkut's University of Technology Thonburi (KMUTT) と共同でバンコクに設置した日本一タイ初の共同研究機関で、ソーシャル・デザインの研究としては唯一無二の機関です。SDIはランド・デザインを提案することで、新しいソリューションを実現する研究機関であり、同時に、千葉大学バンコクキャンパスとしても機能するものです。



SDIが設置されたKX (Knowledge Xchange) ビル

オミクス・ビッグデータを活用したヘルスケア拠点「健康疾患オミクスセンター」を開設

令和5年10月1日、健康疾患オミクスセンターを設置しました。千葉大学が所有する疾患・未病に関する膨大な医科学データ、環境衛生学データ、生体リソースを多階層データとして系統的に取得・活用し、疾患状態・健康状態を科学的・社会実践的に解き明かすセンターです。我々の生体は健康な日常社会においても常に環境ストレスに曝され、生体はエピゲノム応答、細胞間・組織間クロストークをしながら生存しています。健康生活の中で蓄積する多次元のオミクス異常と疾患リスクを解明する健康疾患科学のハブとして研究開発と人材育成を行いヘルスケアの社会実装を目指します。



千葉大学ビジョンに基づく「西千葉well-beingリサーチパーク」

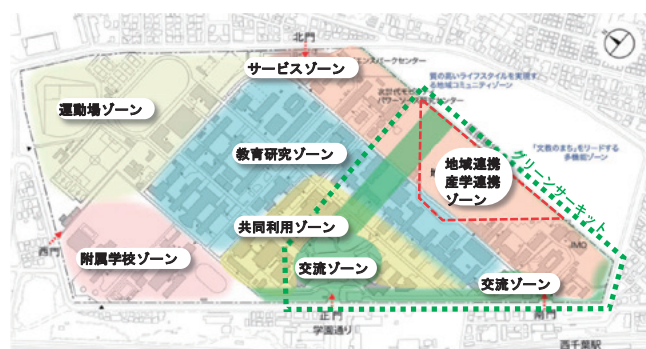
西千葉well-beingリサーチパークは、千葉大学ビジョン「Chiba University Aspirations」の下、一人ひとりの多様な幸せ (well-being) が実現できる社会の構築を目指し、地域連携・産学連携、スタートアップや実証実験、研究の強化・活性化に資する場(パーク)となることを目指して、以下のコンセプトに基づき整備を進めます。



Concept book 表紙(リサーチパーク位置)

◎イノベーション・commonsの実現を先導

西千葉キャンパス、なかでも地域連携・産学連携ゾーンは、学術・研究の場であるとともに、学術と産業と地域社会(住民)が緩やかにつながり、共創の拠点(イノベーション・commons)となることを期待される。「西千葉well-beingリサーチパーク」は、その核となり実現を先導する。



西千葉キャンパス将来ゾーニング

◎産学民が連携する西千葉リビングラボを牽引する拠点を形成

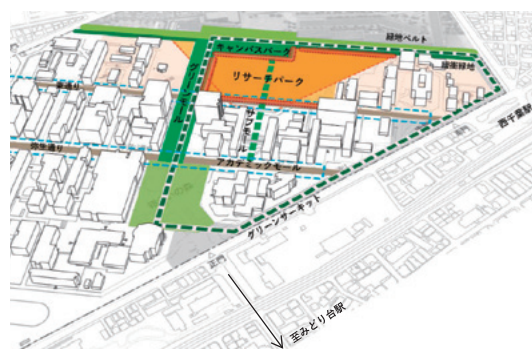
西千葉に集う学生や研究者、企業人、住民といった多様な人々が、それぞれの立場で社会課題を発見し問題を解決するアイデアを考え、実現するために既存の枠を飛び越えて連携して、西千葉をフィールドに新しい価値観やライフスタイル、サービスを生み出す活動を「西千葉リビングラボ」と名付け、リサーチパークはそのハブとなり取組を牽引する。



整備コンセプト図

◎まちにひらかれたキャンパスを形成

キャンパスを貫く軸となる南北のアカデミックモールに加えて、東西のグリーンモールを整備し、豊かな居場所を創り出して、西千葉で展開される多様な研究領域を横断する交流づくりを促進する。西千葉well-beingリサーチパークを起点に、まちと駅前を隔てていたキャンパスを開き、西千葉エリアの学術・産業・地域社会(住民)が有機的に連携する場として再生する。

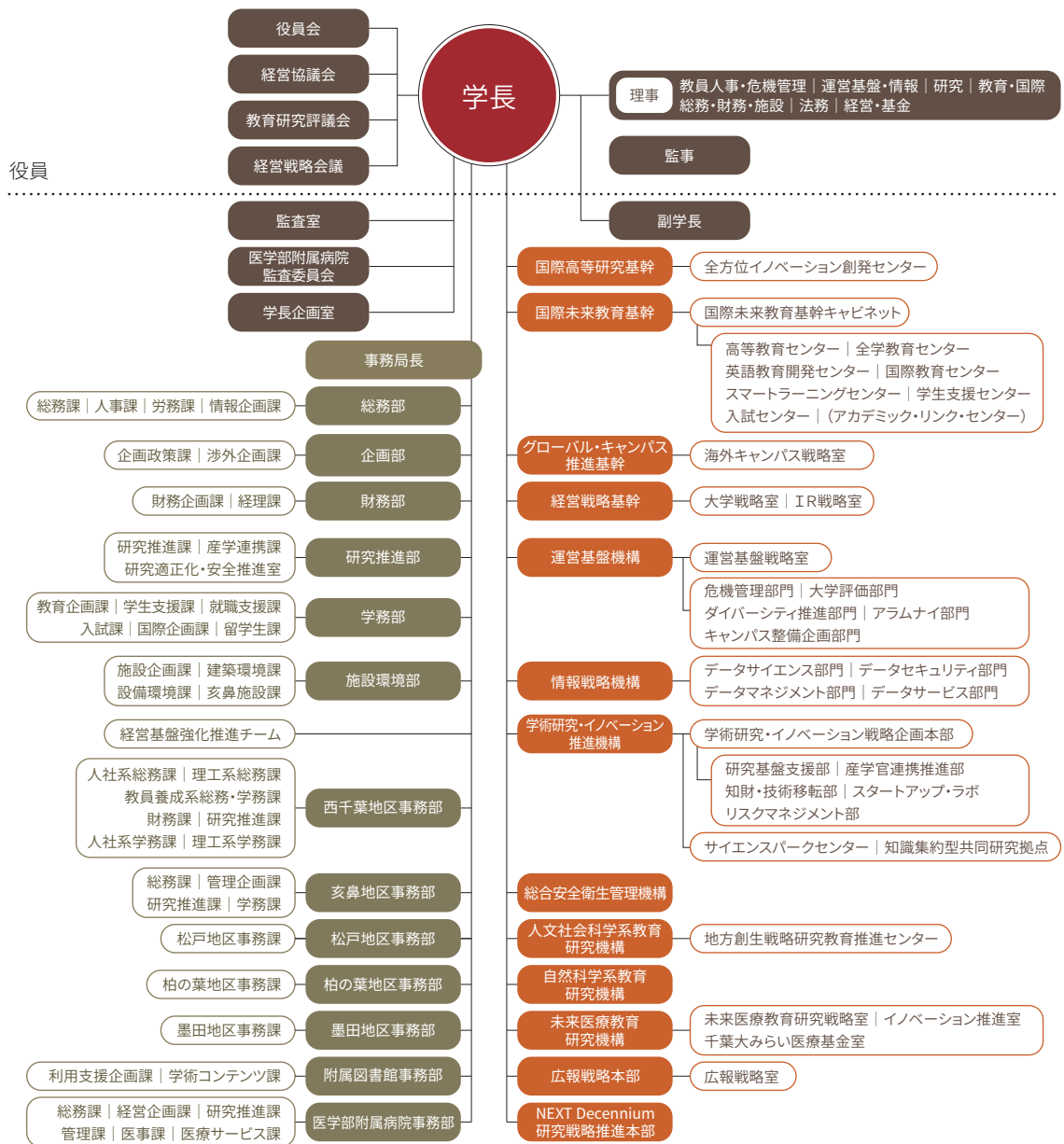


西千葉well-beingリサーチパーク整備の基本的な考え方

整備を機に創出されるグリーンモールやキャンパスパーク等で形成されるグリーンサーキットが、3つの主体を結び付け、駅とキャンパスと隣地開発の一体的な空間を形成します。

組織図(運営組織)

令和6年7月1日現在



千葉大学のガバナンス体制

学長は、経営と教育研究の双方について最終的な判断を行う権限と責任を有しており、理事がその職務を補佐して業務を掌理しています。また、副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどっています。

監事は、業務を監査し、役員に不正行為や法令違反等があると認めるときは、学長、学長選考・監察会議及び文部科学大臣に報告します。

経営協議会は委員の過半数を学外者で構成し、経営に関する重要事項を、教育研究評議会は学内者で構成し、教育研究に関する重要事項を、経営戦略会議は役員と副学長で構成し、経営戦略に関する重要事項を審議する機関として、学長の意思決定を支えています。

なお、重要事項の決定は、学長と理事で構成する役員会の議を経る必要があります。

また、経営戦略の実施組織として基幹・機構・本部が置かれています。

文理混合の視点から、
地球規模の課題解決へ

国際教養学部

1学科

国際教養学科

国際教養学部は文理混合の視点からイシューベース(課題発見型)の学びと発信力を磨く教育を特徴としています。この世界で生起しているさまざまな課題をグローバルな視点から解決することを目指しています。文理混合の視点から、人文社会科学、自然科学、生命科学のすべての領域についてその基礎を学び、課題解決に役立てます。そのために必要な、知識・技能・方法を身に付け、国内外のフィールドで実践的な解決を模索して社会に貢献します。

国際教養学部は、広い視野と好奇心をもち、地球規模の課題解決に取り組む熱意を持った人材の育成を目指しています。多様な種類の海外体験や留学を重視した独自のカリキュラム、そして徹底した少人数教育と学修支援を通じて、国際社会に貢献できる方法を学んでいきます。



計算りきれない
人間の心と
行いを探知る

文学部

1学科4コース

- 人文学科
- 行動科学コース
 - 歴史学コース
 - 日本・ユーラシア文化コース
 - 国際言語文化学コース

自己を知り、世界を知り、自己と世界の関係について学ぶこと。自分の生きていく方向や自分を託す世界の進み方、自己と世界との関係の作り方を模索することが文学部の目標です。人間という計算り尽くせない存在を、行動、社会、歴史、言語、文化、芸術などの諸側面について様々な視点や方法を用いて学問的に追究し、探知ろうとするのが私たちの学問なのです。

文学部は4つのコースからなり、深い専門性を究めるとともに、横断的に人文科学の諸分野を幅広く学ぶことができます。そうした学問的な営みを通じて、狭い学問領域にとらわれない人文科学的素養を持ち、独創的発信力を持って社会に貢献できる人材の育成を目指しています。



変転めまぐるしい社会を
法、経済、経営、会計、政治、
政策から理解する

法政経学部

1学科4コース

- 法政経学科
- 法学コース
 - 経済学コース
 - 経営・会計系コース
 - 政治学・政策学コース

法政経学部は、「社会諸科学の総合」を体現する、日本では他にあまり例のないユニークな複合学部です。グローバル化や情報化と、それに対抗する動きが激しくせめぎあう日本と国際社会について、その実態と諸問題を客観的に観察・分析し、結果に基づいた説得力ある政策を立案・実行できる人間を育成することを目指しています。この目標を実現するため、法政経学部は1学科4コース制(法学、経済学、経営・会計系、政治学・政策学)をとっています。学生は、自らの所属コースで専門性を深めると同時に、他の3コースで自由度の高い受講科目選択を行い、社会科学各分野での「開かれた高度な専門性」を修得することができます。



学ぶ楽しさを伝える
教育者の育成

教育学部

1課程7コース

新しい発想と探究心を
友とし、自然界の未知なる
分野を拓こう

理学部

5学科16学科目

工学は
豊かな人間社会の
構築を目指す実践の学問

工学部

1学科8コース

多種多様な
データを駆使して
社会的課題解決の実践

**情報・データ
サイエンス学部**

1学科2コース

学校教員養成課程

- 小学校 国語科選修、社会科選修、算数科選修、理科選修、教育学選修、教育心理学選修、ものづくり選修
- 小中 音楽科教育分野、図画工作・美術科教育分野、保健体育科教育分野、家庭科教育分野
- 専門教科コース
- 中学校 国語科教育分野、社会科教育分野、数学科教育分野、理科教育分野、技術科教育分野
- コース
- 英語教育コース
- 特別支援教育コース
- 乳幼児教育コース
- 養護教諭コース

教育学部は、教育界において幅広く活躍できる指導的な教員の養成を主な目的としており、多彩な専門分野からなるスタッフが教育者の育成に力を注いでいます。学生はコース・分野・選修に分かれて専門性を磨き、現代的な教育課題へ対処できる力を身に付けるべく日常の学習を進めながら、教育実習や学校インターンシップ等を通して現場での経験を積みみます。4年間の総括として自らの教育実践を振り返りながら、卒業論文・卒業制作・卒業演奏に取り組みます。

- 数学・情報 代数、幾何、基礎解析、応用解析、確率・統計、情報数理
- 数理学科
- 素粒子宇宙物理学、量子多体系物理学、凝縮系物理学
- 物理学科
- 基盤物質化学、機能物質化学
- 化学科
- 分子細胞生物学、多様性生物学
- 生物学科
- 地球内部科学、地球表層科学、環境リモートセンシング
- 地球科学科

自然科学の根底をなす基礎科学の重要性はますますの高まりを見せています。そんな基礎科学を担う理学部には5つの学科があり、宇宙・地球・生命・分子・原子・原子核・素粒子および数学・情報数理学に関する活発な研究と教育活動を実践しています。「私たちがまだ知らない自然界の不思議」を見つけ出し、真理を解き明かす能力を備えた人材の育成を目指しています。

- 建築学コース
- 都市工学コース
- デザインコース
- 機械工学コース
- 医工学コース
- 電気電子工学コース
- 物質科学コース
- 共生応用化学コース

総合工学科

現代社会では、豊かな暮らしを目指して効率性や利便性を追求するだけでなく、人と環境にやさしい配慮も求められています。工学部では、工学教育の伝統的な専門性を尊重しながらも、その枠を越えて互いの連携・融合を図ることにより、常に、広範な社会的要請に応えられる専門教育システムの確立に努めています。「なぜ」を問い、「何をなすべきか」を考え、「いかにして」を構想して実践できる工学技術者・研究者の育成を目指します。

- 情報・データ データサイエンスコース
- サイエンス学科 情報工学コース

情報技術の急速な進化により、データを根拠とした戦略的な意思決定を支援するデータサイエンスが世の中を大きく変えようとしています。情報・データサイエンス学部は、データ分析を通して、データに潜む情報、法則、関連性などを導き出す「データサイエンス力」、データを収集・加工・分析するための工学技術全般に関わる専門性である「データエンジニアリング力」、データサイエンスを社会に応用するための専門性である「データサイエンス展開力」を涵養するカリキュラムを通して、データサイエンスを駆使して社会課題の真因を突き止め、その解決策を立案・実行できる人材、及びデータサイエンスを支え・実現する情報工学技術を深く理解し、データサイエンスの深化・高度化を図る人材を養成します。





園芸学科	栽培・育種学、生物生産環境学
応用生命化学科	応用生命化学
緑地環境学科	環境造園学、緑地科学、環境健康学
食料資源経済学科	食料資源経済学

園芸学部は「食と緑」の総合学府として、園芸植物資源の生産・利用に関わる先端的バイオテクノロジー、環境負荷を低減する資源・エネルギーの効率的な利用、人と自然が共生する環境の保全・再生とランドスケープの創造、医学と福祉への植物の利用、園芸関連産業の経営・マーケティングと政策などの分野で、これからの社会づくりに貢献し、国際的に活躍できる人材を育成しています。また、一般的な農学部とは異なるユニークな学部として、人文社会科学にも広く領域を拡げ、常に時代が求めている最先端を包含するよう、幅広い分野について教育・研究を行っています。



医学科

医学部は150年の歴史の中で基礎医学や臨床医学分野の研究や診療に優れた業績を数多くあげており、日本・世界の医学をリードする幾多の指導的な臨床医・研究者を輩出してきました。最先端の基礎医学研究の成果を新しい治療法の開発に結び付ける「治療学」の研究に力を入れており、最新の治療法や病める者の目線に立って医療を患者さんに届けることのできる優秀な臨床医の育成を目指しています。将来の国際的な活躍にも対応するため、海外で実習を行う実践的プログラムも準備しています。2021年4月には、新棟が完成し、新たな歴史の一步を踏み出しました。同じ亥鼻キャンパスに看護学部と薬学部が存在するメリットを活かしたチーム医療の推進、社会のニーズに対応した地域医療への貢献、グローバルに通用する能力を持った医師の養成に力を入れています。



薬学科

薬科学科

薬学は化学物質を介して、生命、健康及び環境について総合的に研究する自然科学の一分野です。薬学部では、6年制の薬学科と4年制の薬科学科の2学科制を採用していますが、両学科共に高い研究力を持ち指導的立場でグローバルに活躍できる化学物質の専門家を育成することを目指しています。生命現象の物質的基盤を科学的に明らかにすること、革新的な医薬品を創成すること、医療や環境の諸問題に対し指導的役割を果たす化学物質の専門家を養成することを目的とし、化学物質に関連する事柄を幅広く学びます。これからも難治性疾患、新興・再興感染症、食の安全、環境汚染など、解決していかなければならない医療や環境上の諸問題に取り組んでいきます。なお、6年制の卒業生は薬剤師国家試験の受験資格が得られます。



看護学科

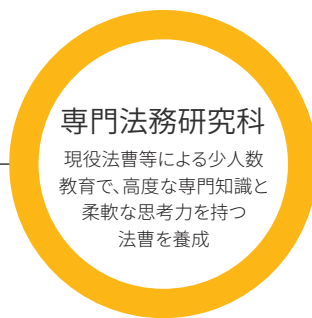
本学部は、国立大学唯一の看護学部です。看護学とは、一人ひとりの意思を尊重し、健康かつ安寧な生活を送ることができるよう、看護専門職者（看護師、保健師、助産師）がより善い支援を行うための理論的根拠や方法を追究する学問です。本学部では、個々人と家族を支援することにとどまらず、地域社会やグローバル社会の質の向上に看護専門職者として寄与するための基礎的能力を育成しています。さらに看護実践と研究の往還に取り組むことのできる教育研究者や高度看護実践者の育成に向けて、大学院看護学研究科の教育目標に連動するよう、各学年で看護研究について学修します。社会や医療・福祉の状況が大きく変化中での複雑な課題解決に向けて、専門職連携実践の能力育成にも重点をおいています。





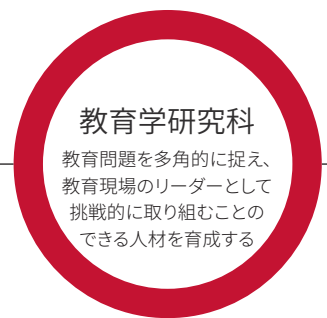
人文公共学府

既存の枠組みを超えた
革新的な人文公共学研究の
構築を目指す



専門法務研究科

現役法曹等による少人数
教育で、高度な専門知識と
柔軟な思考力を持つ
法曹を養成



教育学研究科

教育問題を多角的に捉え、
教育現場のリーダーとして
挑戦的に取り組むことの
できる人材を育成する

博士前期課程 2専攻6コース

— 人文科学専攻：基盤文化、多文化共
生、大学教育・学修支援

— 公共社会科学専攻：公共学、経済経
営科学、Economics in English

博士後期課程 1専攻3コース

— 人文公共学専攻：人文科学、公共学、
社会科学

大学院人文公共学府は、千葉
大学における人文・社会科学
研究の拠点として、公共学的
視点(学際性・国際性・実践
性・社会性)を身に付けるカリ
キュラムを通じ、社会的課題
の発見力と解決力、社会との
対話力・発信力、多様な課題
に対応できる実践力を育成し、
「次世代型グローバル人材」
を養成します。博士前期課程
では、特筆すべき点として人文
科学専攻には、学修支援専門
員を育成する大学教育・学修
支援コースを、公共社会科学
専攻には、英語コースのEco-
nomics in Englishコースを設
置しています。博士後期課程
は一専攻とし、人社融合の研
究を促進しています。

専門職学位課程

— 法務専攻

専門法務研究科は、法曹養成
に特化した教育を行う標準修
業年限3年の専門職大学院
で、一般に法科大学院と呼ば
れています。本研究科は高度
な専門知識と柔軟な思考力を
修得した、常に生活者の視点
を忘れない「心」ある法曹を養
成することを目的としていま
す。基本を重視したカリキュラ
ムでは、法的専門知識を少人
数・双方向の授業形式で学ぶ
ことができます。また、経験豊
かな弁護士・検察官・裁判官と
いった実務家教員が教育を担
うとともに、千葉県弁護士会
の協力の下、すべての学生に
弁護士事務所で実習する機会
を提供しています。なお、令和2
年には、千葉大学法政経学部
のほか、明治学院大学法学部
および鹿児島大学法文学部と
連携協定を締結し、これら各
学部の法曹コースを修了した
者は、本研究科2年コースの特
別入試を受験できるようにし
ました。

修士課程 1専攻5系

— 学校教育学専攻：教育発達支援系、
横断型授業づくり系、言語・社会系、
理数・技術系、芸術・体育系

専門職学位課程(教職大学院)

— 高度教職実践専攻

教育学研究科は、学部におけ
る一般的並びに専門的教育
を基礎とし、広い視野に立って
精深な学識を授け、教育の理
論・実践を創造的に推進し得
る人材を育成することを目的
としています。学校教育学専
攻では、教育の諸問題を科学
的・実践的視点から捉え、学際
的なアプローチで問題に的確
に対応できる人材の育成を目
指すとともに、教育の現場と
教育学との架橋を図ることも
目指しています。高度教育実
践専攻では、社会や学校現場
の変化に伴う課題を幅広い視
点から捉え対応できる指導力
や、課題に対して教職員等の
集団を機能的かつ効果的に対
応させるマネジメント力を高
めるために3つの分野を設け、
それぞれの領域についての高
い専門性を持つ人材の育成を
目指しています。



博士前期課程 5専攻17コース

- 数学情報科学専攻：数学・情報数理学コース、情報科学コース
- 地球環境科学専攻：地球科学コース、リモートセンシングコース、都市環境システムコース
- 先進理化学専攻：物理学コース、物質科学コース、化学コース、共生応用化学コース、生物学コース、量子生命科学コース
- 創成工学専攻：建築学コース、イメージング科学コース、デザインコース
- 基幹工学専攻：機械工学コース、医工学コース、電気電子工学コース

博士後期課程 5専攻15コース

- 数学情報科学専攻：数学・情報数理学コース
- 地球環境科学専攻：地球科学コース、リモートセンシングコース、都市環境システムコース
- 先進理化学専攻：物理学コース、物質科学コース、化学コース、共生応用化学コース、生物学コース、量子生命科学コース
- 創成工学専攻：建築学コース、デザインコース
- 基幹工学専攻：機械工学コース、医工学コース、電気電子工学コース

融合理工学府は、理学および工学分野において、両者を俯瞰し協奏を誘起できる幅広い学識と深い専門性、問題解決能力を有する高度専門人材あるいは先導的・指導的研究者を養成することを目的としています。この目的を達成するために、理学から工学にわたる5専攻の下に17のコースを置き、専門教育を行っています。さらに専攻単位での横断的教育や学府全体としてのキャリア教育・イノベーション教育の実施など理工系大学院共通教育の充実も図り、高い専門性と広い視野を涵養します。

後期3年博士課程

- 情報・データサイエンス専攻

情報・データサイエンス学府

は、総合大学である千葉大学がカバーする幅広い専門分野との緊密な連携のもと、多様なバックグラウンドを持った人材を受け入れ、実社会のデータに触れることのできる学際研究教育環境において、情報・データサイエンス分野のイノベーションを先導する人材を養成します。この目的のため、データサイエンスの実践分野としての展開の期待が高く、千葉大学の強みとして実績のある3つのカテゴリー、「医療・看護」、「環境・園芸」、「人間・感性」の専門科目群に加え、データサイエンスの基幹的技術をかばる専門科目群からなる実践的なカリキュラムを通して、高度情報・データサイエンス教育を展開します。

博士前期課程

1専攻3コース10領域・2プログラム

- 環境園芸学専攻：園芸科学コース（栽培・育種学、生物生産環境学、応用生命化学、食料資源経済学）、ランドスケープ学コース（環境造園計画学、環境造園デザイン学、環境造園管理学、緑地環境システム学、緑地環境資源学、環境健康学）、国際環境園芸学コース（園芸科学プログラム、ランドスケープ学プログラム）

博士後期課程

1専攻3コース10領域・2プログラム

- 環境園芸学専攻：園芸科学コース（栽培・育種学、生物生産環境学、応用生命化学、食料資源経済学）、ランドスケープ学コース（環境造園計画学、環境造園デザイン学、環境造園管理学、緑地環境システム学、緑地環境資源学、環境健康学）、国際環境園芸学コース（園芸科学プログラム、ランドスケープ学プログラム）

園芸学研究所は、前期2年・後期3年の博士課程の独立研究科です。「園芸」と「ランドスケープ」を専門領域とする日本唯一の園芸学研究所として、食料資源に関する課題や健康・福祉を含む、広範囲な環境科学に関する園芸学領域の専門分野の深化はもとより、自然・社会・人文科学を含む文理融合的なアプローチによって、学際的に幅広い視野から教育・研究を行っています。本研究科の博士前期課程を修了した者には修士の学位が、また、博士後期課程を修了した者には博士の学位がそれぞれ授与されます。

修士課程 2専攻

- 医科学専攻
- 総合薬品科学専攻

4年博士課程 2専攻

- 先端医学薬学専攻：革新医療創生 CHIBA卓越大学院、免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム
- 先進予防医学共同専攻

後期3年博士課程 1専攻

- 先端創薬科学専攻

医学薬学学府は、医学研究科と薬学研究科を改組して設立された全国で初めての医学・薬学融合型大学院教育組織です。本学府では医学研究院・薬学研究院・附属病院・真菌医学研究センター・予防医学センターなどの教員に加え、理化学研究所、量子科学技術研究開発機構、千葉県がんセンター、産業技術総合研究所、かずさDNA研究所、国立環境研究所、医薬品医療機器総合機構(PMDA)あるいは武田薬品工業株式会社といった連携講座から優れた教授陣を迎え、世界の新しい医療の開発と発展に貢献すべく、生命科学の革新的な研究を担う研究者、医薬品・医療機器などの研究開発を目指す人材、医療の高度化に対応できる医師・薬剤師を養成することを目的としています。

看護学研究科

実践と研究の往還をグローバルに展開する教育研究者と高度看護実践者の育成を目指す

博士前期課程 1専攻2コース
—看護学専攻：看護学コース、看護実践学コース

博士後期課程 1専攻
—看護学専攻

大学院看護学研究科は日本において最大規模であり、教育研究者、高度看護実践者、看護管理者としてキャリアアップするために様々な学びの機会を提供しています。総合大学千葉大学で、しかも最大規模の看護学研究科で学ぶことは、学際的なネットワークが得られることを意味します。博士前期課程は、看護学コースと看護実践学コースから成り立ち、さらに看護実践学コースは、看護管理学、高度看護実践学（小児看護・がん看護専門看護師認定試験受験に必要な単位を取得できます）、特定看護学の3つのプログラムで構成されます。コースやプログラムを超えて、大学院生が共に学ぶ共通基盤科目が多数開講されています。博士後期課程では、看護学の教育研究者としてグローバルに活躍するための能力を育成しています。災害看護副専攻プログラムを学修することもできます。

総合国際学位プログラム

全国初の学位プログラムで学際研究を推進する

修士課程

総合国際学位プログラムは、グローバルな諸課題を解決するために、社会課題と学術知を結合する高度な能力を有する人材を育成することを目的として、令和2年4月に、全国で初の研究科等連係課程実施基本組織として設置されました。本プログラムは人文公共学府と融合理工学府との緊密な連係及び協力のもと、教育課程を実施します。本プログラムでは、既存の学問領域を超え、分野を横断して問題の解決を目指した知識生産を行うトランスディシプリナリーな教育・研究を展開し、自主的・自律的に研究計画を立案するセルフ・デザインド・メジャー（自己設計専攻）等の特徴としています。中心的な学問分野としては現在、(1) 移民・難民研究、(2) 科学技術社会論、(3) 環境科学といった越境的・横断的な探求課題が設定されていますが、今後はさらに身体論や認知科学など、新たな分野が加わる予定です。

東京学芸大学 大学院連合学校 教育学研究科

教員養成系大学に設置された日本ではじめての博士後期課程

博士課程 1専攻9講座

—学校教育学専攻：教育構造論、教育方法論、発達支援、言語文化系教育、社会系教育、自然系教育、芸術系教育、健康・スポーツ系教育、生活・技術系教育

本研究科は大学における教員養成の充実と学校教育の発展を目指して、我が国ではじめて教員養成系大学・学部に設置された博士課程であり、東京学芸大学・埼玉大学・千葉大学・横浜国立大学を母体として構成される後期3年のみの課程からなる独立研究科です。研究の中心は教科教育学の発展を主な目標とし、学校教育の主要部分である各教科教育の目的・内容・方法等の研究を高度化し、さらに学校教育の場面で生じている課題の解決を目指した現実的な研究を活性化させ、学校教育のより一層の充実に結びつく研究を展開することを目標としています。

連合小児発達学 研究科

子どものこころの問題に科学的な視点で対処できる人材育成の教育研究拠点

2年制博士前期課程

3年制博士後期課程

1専攻5講座

こころの発達神経科学講座（大阪校）／こころの相互認知科学講座（金沢校）／こころの発達健康科学講座（浜松校）／こころの認知行動科学講座（千葉校）／こころの形成発達科学講座（福井校）

5つの国立大学（大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学）が連携した、2年制の博士前期課程、3年制の博士後期課程の大学院です。千葉校は、こころの認知行動科学講座に、認知行動療法学、メンタルヘルス支援学、認知行動脳科学の3つの研究領域を有し、子どものこころの発達教育研究センターの教員が指導します。心理学、教育学、医学、保健学、福祉学、脳科学、情報科学などの新しい学際領域で子どものこころの問題に対して科学的な視点で対処できる人材を育成します。認知行動療法を中心に、対人援助教育を含めたメンタルヘルスの向上を目指す実践的な研究を推進しています。

環境リモートセンシング研究センター※1	https://ceres.chiba-u.jp/
真菌医学研究センター※1	http://www.pf.chiba-u.ac.jp/
アカデミック・リンク・センター※2	https://alc.chiba-u.jp/
共用機器センター	http://www.cac.chiba-u.ac.jp/
先進科学センター	https://www.cfs.chiba-u.ac.jp/
ソーシャル・デザイン・インスティテュート	
グローバル関係融合研究センター	https://www.chiba-u.ac.jp/crsgc/
海洋バイオシステム研究センター 銚子実験場	http://marine.biosystems.chiba-u.jp/
ソフト分子活性化研究センター	https://smarc.chiba-u.jp/
千葉ヨウ素資源イノベーションセンター	https://ciric.chiba-u.jp/
ハドロン宇宙国際研究センター	http://www.icehap.chiba-u.jp/
分子キラリティー研究センター	https://www.tp.chiba-u.jp/MCRC/
デザイン・リサーチ・インスティテュート	http://www.dri.chiba-u.jp/
フロンティア医工学センター	https://www.cfme.chiba-u.jp/
環境健康フィールド科学センター 都市環境園芸農場(柏の葉) / 森林環境園芸農場(沼田)	http://www.fc.chiba-u.jp/
バイオメディカル研究センター	https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/biomed/
社会精神保健教育研究センター	https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/shakai/
予防医学センター	https://cpms.chiba-u.jp/
未来医療教育研究センター	https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/edu_mirai/
再生治療学研究センター	https://www.m.chiba-u.ac.jp/class/saiseichiryo/
子どものこころの発達教育研究センター	https://www.cocoro.chiba-u.jp/
災害治療学研究所	https://www.ridm.chiba-u.jp/
健康疾患オミクスセンター	https://hadoc.chiba-u.jp/index.html
植物分子科学研究センター	https://www.p.chiba-u.jp/phytochemical/
データサイエンスコア	
アイソトープ実験施設	https://ric.chiba-u.jp/

※1 学校教育法施行規則第143条の3第2項に定める共同利用・共同研究拠点

※2 学校教育法施行規則第143条の2第2項に定める教育関係共同利用拠点

未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点

<https://csimva.chiba-u.jp/>

教育学部附属 教員養成開発センター

工学部附属 創造工学センター

<https://www.f-eng.chiba-u.jp/souzou/>

医学薬学府附属 薬用資源教育研究センター

理学研究院附属 膜タンパク質研究センター

<https://mprc.chiba-u.jp/>

工学研究院附属 次世代モビリティパワーソース研究センター

<https://mpsrc.chiba-u.jp/>

インテリジェント飛行センター

<https://caiv.chiba-u.jp/>

園芸学研究院附属 宇宙園芸研究センター

<https://www.space-chiba-u.jp/>

医学研究院附属 クリニカル・スキルズ・センター

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/ccsc/>

法医学教育研究センター

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/class/houi/>

超高齢社会研究センター

国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター

治療学人工知能(AI)研究センター

<https://www.caist.m.chiba-u.jp/>

動物実験施設

看護学研究院附属 看護実践・教育・研究共創センター*

<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

専門職連携教育研究センター

<https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>

※ 学校教育法施行規則第143条の2第2項に定める教育関係共同利用拠点

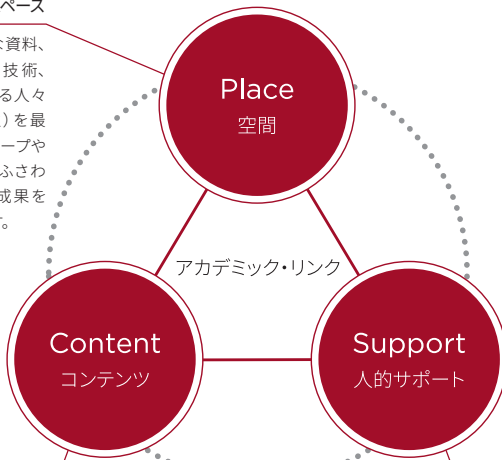
アカデミック・リンクとは、生涯学び続ける基礎的な能力と知識活用能力を持つ「考える学生」、および深い専門性と俯瞰的思考力を備えた「知のプロフェッショナル」の育成を目標とした、教育・学習のためのコンセプトです。附属図書館／アカデミック・リンク・センターは、静寂空間だけでなく議論や発表のできるエリアなど多様な学習環境を備え、紙や電子による教材やコンテンツ、そして学生の学びへの人的なサポートを行っています。さらに、デジタルリソースを活用した学術的活動を支援する情報資源の提供や、大学院生向けセミナーや英語の論文等に関する個別相談などの支援を実施し、学士課程から大学院課

程までを一貫して支える教育基盤構築に向けて、千葉大学における教育・学習支援機能の強化・拡充を行っています。さらに令和元年11月には、附属図書館松戸分館の増改築により、松戸キャンパスでも「アカデミック・リンク」の本格的な展開を開始しました。アカデミック・リンク・センターは、平成27年7月に教育関係共同利用拠点として認定されました。同拠点で実施する履修証明プログラムは、令和元年度より文部科学大臣認定「職業実践力養成プログラム」(BP)にも認定され、これからの大学に必要とされる新たな専門的職員としての教育・学修支援専門職の確立と養成を行います。

考える学生を創造するための3つの機能

アクティブ・ラーニング・スペース

学生の皆さんが、様々な資料、コンテンツ、情報通信技術、あるいは学習を支援する人々(教員、図書館員、学生)を最大限活用しながら、グループや個人で学習を行うのにふさわしい場、自らの学習の成果を公表する場を提供します。



デジタル・スカラシップ

デジタルコンテンツを活用した研究、教育、学習を実現するための支援と学術コミュニケーションのデジタル化に重点を置き、「千葉大学学術リソースコレクション:c-arcj」や「千葉大学の本棚:cu-Books」による千葉大学の持つ学術リソースの提供や研究成果の発信、デジタルコンテンツの利用環境整備を行います。

リサーチ&ラーニング・commons

学部生や大学院生の皆さんが各自の興味・関心・学習ニーズにあわせて選択できる「スキル向上のための支援プログラム(Encourage YOUR Research!)」を、講義・実習形式のセミナー、個別学習相談、オンライン教材など多様な形式で提供し、学びの高度化を支援します。

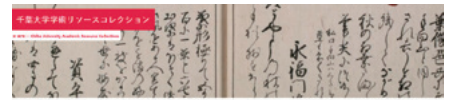
目的

考える学生の創造と知のプロフェッショナルの育成

「生涯学び続ける基礎的な能力」
「知識活用能力」を持つ学生の育成



アクティブ・ラーニング・スペース



デジタル・スカラシップ



リサーチ&ラーニング・commons

亥鼻キャンパスに位置する医学部附属病院の理念は、人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努めることです。

概要

(2024年5月1日現在)

病床数	850床	診療報酬稼動額(2023年度)	43,229百万円
医師 / 歯科医師	1,025人	外来紹介患者数(2023年度)	19,819人
看護師等	1,266人	新入院患者数(2023年度)	20,713人
医療技術職員	344人	平均在院日数(2023年度)	10.7日

組織

(2024年4月1日現在)

診療科

消化器内科	肝胆膵外科	リハビリテーション科
血液内科	乳腺外科	精神神経科
腎臓内科	呼吸器外科	脳神経外科
アレルギー・膠原病内科	麻酔・疼痛・緩和医療科	脳神経内科
糖尿病・代謝・内分泌内科	泌尿器科	婦人科
循環器内科	救急科	産科
呼吸器内科	整形外科	小児科
和漢診療科	眼科	小児外科
感染症内科	皮膚科	放射線科
腫瘍内科	耳鼻咽喉・頭頸部外科	病理診断科
心臓血管外科	歯科・顎・口腔外科	総合診療科
食道・胃腸外科	形成・美容外科	

中央診療施設等

検査部	臨床工学センター	認知行動療法センター
手術部	臨床腫瘍部	プレストセンター
放射線部	遺伝子診療部	造血細胞移植センター
材料部	認知症疾患医療センター	画像診断センター
人工腎臓部	アレルギーセンター	スポーツメデックスセンター
集中治療部	周術期管理センター	救命救急センター
輸血・細胞療法部	高齢者医療センター	ハートセンター
冠動脈疾患治療部	糖尿病コンプリケーションセンター	痛みセンター
病理部	緩和ケアセンター	超音波センター
内視鏡センター	包括的脳卒中センター	コロナワクチンセンター
リハビリテーション部	周産母子センター	クオリティ・マネジメント・センター
こどものこころ診療部	肺高血圧症センター	リプロダクション支援センター
企画情報部	国際医療センター	移行期医療支援センター
医療安全管理部	がんゲノムセンター	医師キャリア支援センター
感染制御部	メドテック・リンクセンター	千葉県肝疾患相談センター
臨床試験部	データセンター	未来粘膜ワクチン研究開発センター
患者支援部	東洋医学センター	薬剤部
臨床栄養部	成田赤十字病院肺がん治療センター	看護部
総合医療教育研修センター	病院経営管理学研究センター	事務部
東金九十九里地域臨床教育センター (東千葉メディカルセンター内)	浦安リハビリテーション教育センター	病院長企画室
未来開拓センター	スタッフケアセンター	



新たに大鳥精司病院長が就任しました

横手幸太郎前病院長が千葉大学長に就任することを受け、病院長候補者の選出を行い、複数の候補者の中から、大鳥新病院長が選出されました。4月1日に就任した新病院長のもと新たな体制で、より良い医療の提供ができるよう、尽力してまいります。



大鳥病院長のコメント

「質の高い医療を提供し、関連病院との連携を深めながら、皆様の健康増進に寄与してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。」

インドネシア政府系7病院の医師23名が視察しました!

インドネシア政府系の7病院から医師ら23名が当院を視察しました。このうち、ワヒディン・スティロフソド病院は、2022年12月に教育や研究などの分野で当院と協定を締結して以降、初めての公式訪問となります。当院の横手幸太郎病院長(当時)や鈴木拓児国際医療センター長(当時)、濱田洋通小児科長、中野泰至小児科助教らと、将来の医療協力の構想について活発な意見交換を行ったあと、外来や病棟、検査エリアを見学しました。



院内ツアーで眼科外来を案内する馬場隆之眼科長

妊娠を希望するカップルにワンストップの診療を提供 リプロダクション支援センター

2024年4月1日、妊娠を希望するカップルに高度な生殖医療の提供をめざしたリプロダクション支援センターを設置しました。婦人科・産科医、泌尿器科医、看護師、胚培養士などが所属し、不妊治療方針の相談、薬物療法や人工授精などの一般不妊治療の実施、体外受精や顕微鏡授精などの生殖補助医療の実施、がんサイバーに対する妊孕性温存療法の実施などを行っています。

センターが設置されることにより、婦人科・産科での診療中に男性パートナーの精査が必要になった場合、カップルとして診療を進めることが容易となり、シームレスな治療を提供することができます。また、男性・女性の双方に不妊の原因がある場合、センターとして診療情報を共有することにより、より適切な治療を提供できるようになります。



(左から) 泌尿器科 市川智彦教授と
リプロダクション支援センター長 甲賀かをり教授



プレコンセプション外来では妊娠を望みつつ、不安もある方にカウンセリングを行っています

医師セミナーで地域医療に貢献! 院内外の医師がESDを体験

地域医療に貢献できるドクターの育成を目的に、内視鏡センター主催でESDハンズオンセミナーを開催しました。ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)とは、2mm程度のナイフで早期がんを薄く剥いでいく技術です。セミナーには院内外の医師20名が参加し、特別講演やシミュレーターを使用した講習を受講しました。



ブタの臓器を使ってシミュレーション講習を行いました

看護師をめざす高校生が実際の現場で 看護体験

看護師をめざす県内高校3年生を対象に「ふれあい看護体験」を実施しました。病棟で、実際に看護師が働く姿を見学、その後に看護師指導の下、脈拍測定や聴診の仕方などを体験しました。



看護師に包帯の巻き方を教わる高校生たち

教育学部附属幼稚園 <http://kdg.e.chiba-u.jp/>

創立121周年を迎える歴史ある幼稚園です。教育目標「うごく」「かんじる」「かんがえる」のもと、日々の保育を「子どもを主人公とした物語」ととらえ、子どもが主体的に取り組む保育を実践しています。近年は、子どもたちの声を大切にしながら、子どもと教師が一緒に行事や遊びを考える「対話的な保育」を目指しています。園庭は広々としており、運動会のできる広場や「どんぐり山」「夢の森」「サツマイモ畑」などを有しています。子どもたちは四季折々の自然に触れたり、手作りの挑戦遊具にチャレンジしたりしながらのびのびと遊んでいます。



教育学部附属小学校 <https://www.el.chiba-u.jp/>

昭和41年、附属第一小学校と附属第二小学校が統合され、千葉大学教育学部附属小学校として開校しました。令和3年度は「ソニー子ども科学教育プログラム」において「最優秀校」に選ばれ、令和4年「子ども科学教育全国大会千葉大会」を開催。また、文部科学省から、「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」の委託を受け、実践と研究を展開しています。「図書室にNOTジャケ借りコーナーをつくろう」の実践が、新聞18社に掲載・紹介されるなど、地域に貢献する先進的な実践研究を行っています。



教育学部附属中学校 <https://www.jr.chiba-u.jp/>

昭和40年に附属第一、第二中学校が統合され、現在の西千葉地区で教育学部附属中学校として発足しました。「自己理解・自己決定・自己実現」という学校教育目標を掲げ、生徒の主体性を重んじた教育活動を行っています。それは、生徒会を主催とする運動会、文化祭、三年生を送る会によく現れており、様々な伝統も引き継がれています。また、附属学校の使命の1つである教育研究開発に熱心に取り組んでおり、その成果を公開研究会等で発信しています。特に1人1台のChromebook端末や生成AIの活用などのICT教育やグローバル教育の推進に力を入れています。



教育学部附属特別支援学校 <http://yougo.e.chiba-u.jp/>

昭和40年、附属小学校に特殊学級として開設され、昭和48年に附属養護学校（現特別支援学校）として独立、開校しました。児童生徒一人ひとりが主体的に取り組む学校生活を大事にし、自立した生活ができることを目標とし、「遊びの指導」や「生活単元学習」、「作業学習」などの各教科等を合わせた指導を教育課程の中心に据えて、知的障害教育の実践や研究活動の推進に日々取り組んでいます。「令和の教育的ニーズを踏まえた各教科等を合わせた指導」を研究テーマとして、授業研究会や公開研究会等を行い、研究成果を発信しています。



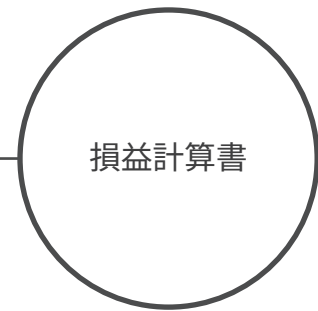
| 令和5事業年度決算

01. 財務諸表ダイジェスト



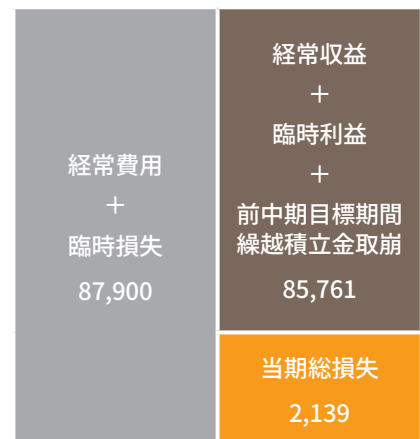
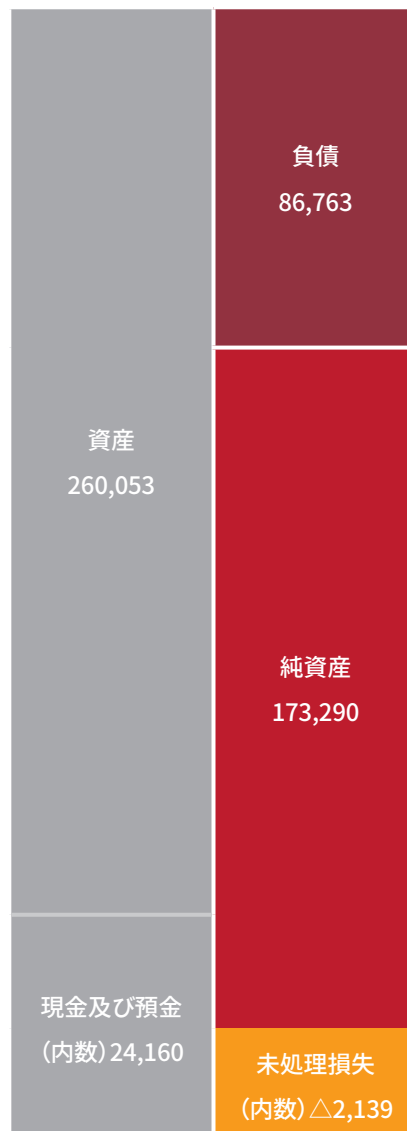
貸借対照表

令和6年3月31日における本学の財政状態を示すもので、平成16年の法人化移行時に国から引き継いだものも含めて、すべての資産、負債及び純資産の状況を表します。



損益計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日の本学の事業規模を明らかにするもので、本学の教育・研究等の業務運営に要した費用、運営費交付金・自己収入等による収益や利益の発生状況を表します。



損失の処理に 関する書類

損益計算書により算定された当期末処理
損失の処理内容を表します。

キャッシュ・フロー 計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日にお
ける本学の資金の流れを、一定の活動
別に区分して表します。

(単位：百万円)

前中期目標期間 繰越積立金取崩 2,139	未処理損失 2,139
-----------------------------	----------------

支出 92,532	収入 93,273
資金増加額 741	

02. 貸借対照表の概要

1 貸借対照表

貸借対照表は大学の財政状況を明らかにするものです。

大学が所有する資産（教育・研究・診療活動等に必要な資源）と、その調達方法である負債（他人資本）及び純資産（自己資本）が示されています。

(単位：億円)

資産の部			負債の部		
固定資産			長期繰延補助金等		
土地	1,285	(1,285)	借入金 ※3	363	(383)
建物等 ※1	707	(769)	長期未払金	161	(158)
備品	134	(127)	寄附金債務	88	(84)
図書	48	(48)	未払金	122	(135)
建設仮勘定	25	(5)	その他	104	(72)
投資有価証券	16	(9)	負債合計	868	(859)
その他	12	(11)			
流動資産			純資産の部		
現金及び預金 ※2	242	(274)	資本金	1,488	(1,506)
未収入金	105	(101)	資本剰余金	89	(108)
有価証券	20	(33)	利益剰余金 ※4	177	(80)
棚卸資産	6	(6)	当期末処分利益(当期末処理損失) ※4	Δ21	(119)
その他	2	(2)	純資産合計	1,733	(1,813)
資産合計	2,601	(2,672)	負債・純資産合計	2,601	(2,672)

・単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

()は令和4事業年度

○会計検査院の指摘対応による減価償却費修正等に伴い、建物等が減少しています。(※1)

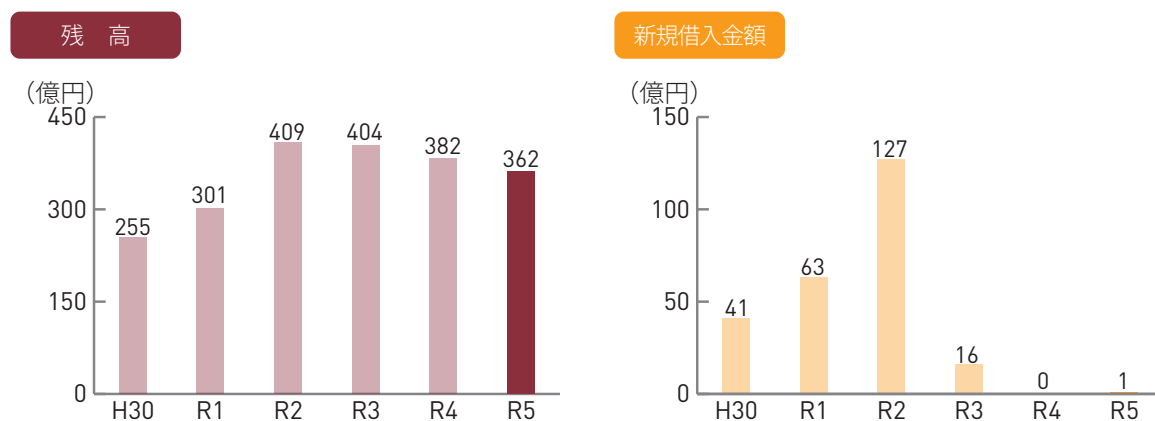
○土地の譲渡に伴う大学改革支援・学位授与機構への納付等により現金及び預金が減少しています。(※2)

○附属病院再開発に伴う借入金の償還により、借入金が減少しています。(※3)

○文部科学大臣の承認による目的積立金が増加したため、利益剰余金が増加しています。

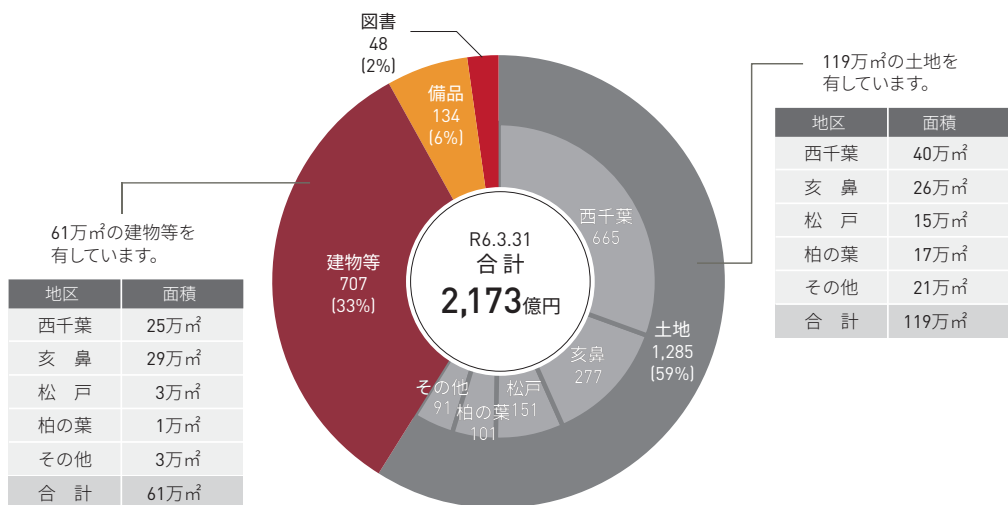
また、会計検査院の指摘対応による減価償却費等の修正等により、当期末処理損失となっております。(※4)

借入金の年度別推移

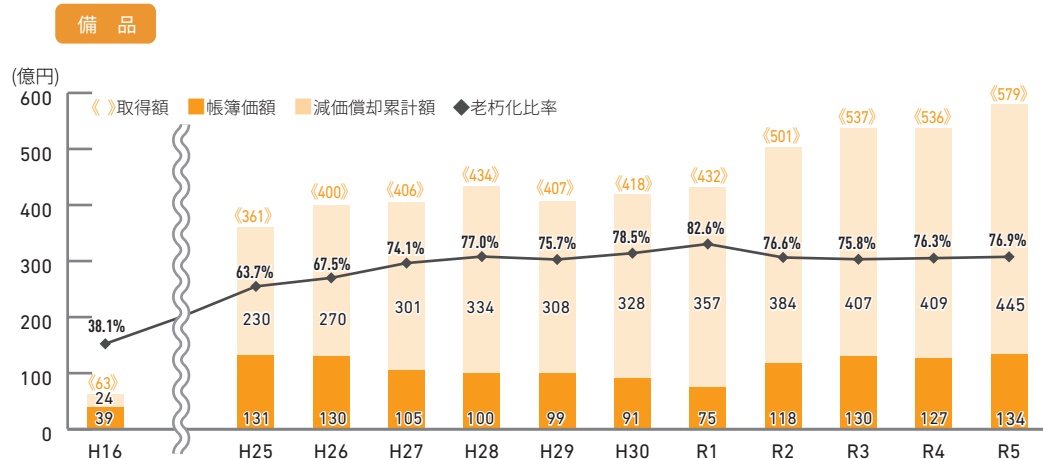
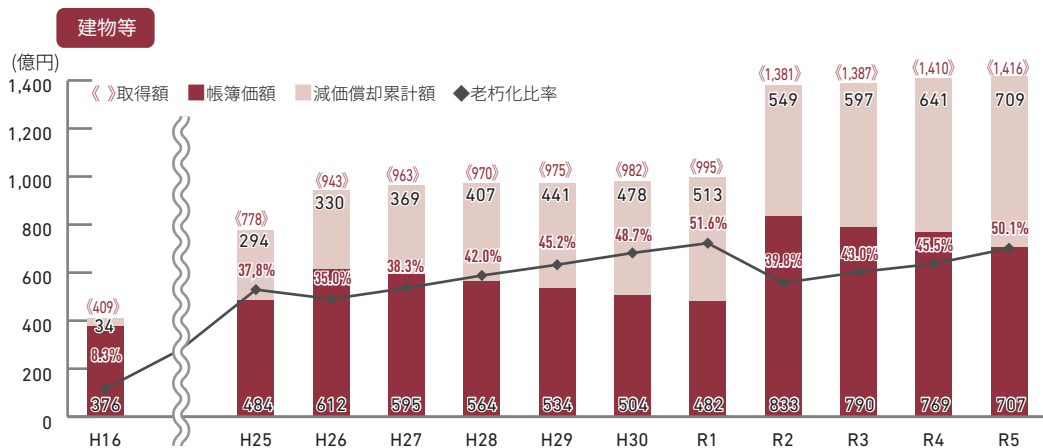


2

主要な有形固定資産の内訳



施設等取得額・老朽化比率の年度別推移



03. 損益計算書の概要

1 損益計算書

損益計算書は大学の運営状況を明らかにするものです。

事業活動を行うためにかかった費用（教育・研究経費、診療経費等）とそれに充当した収益（運営費交付金収益、学生納付金収益、附属病院収益等）を示しています。

(単位：億円)

経常費用			経常収益		
教育経費	37	[36]	運営費交付金収益	182	[183]
研究経費	47	[45]	学生納付金収益	98	[94]
診療経費 ※1	326	[298]	附属病院収益 ※1	431	[405]
教育研究支援経費	14	[15]	外部資金	83	[80]
受託研究費等	42	[42]	機関補助金 ※2	34	[62]
人件費	372	[371]	その他	11	[8]
一般管理費	24	[22]			
その他	2	[3]			
経常費用合計	864	[832]	経常収益合計	838	[832]
臨時損失	15	[5]	臨時利益 ※3	1	[123]
			目的積立金取崩等 ※4	19	[1]
計	879	[837]	計	839	[955]

当期総利益(損失) Δ21 [119]

・単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合があります。

()は令和4事業年度

○効率的な病床運用を行ったこと等に伴う稼働率の増加により、附属病院収益が増加しています。

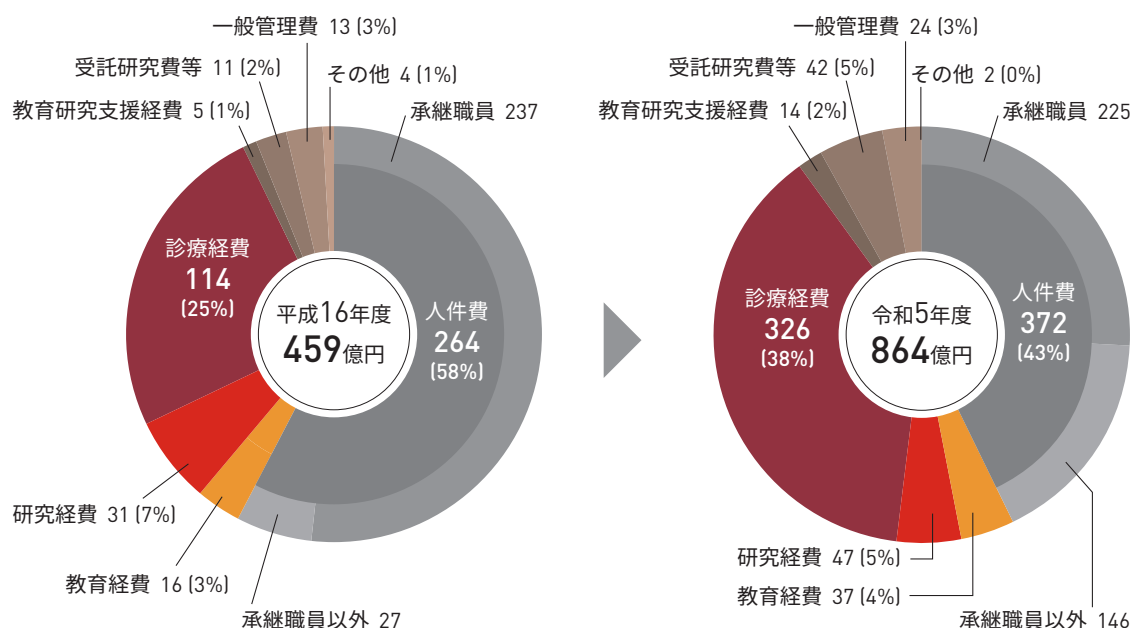
また、稼働率増加に伴う医薬品費や診療材料費等の影響により、診療経費が増加しています。(※1)

○新型コロナウイルス感染症対策事業補助金等の受入の減少により、機関補助金が減少しています。(※2)

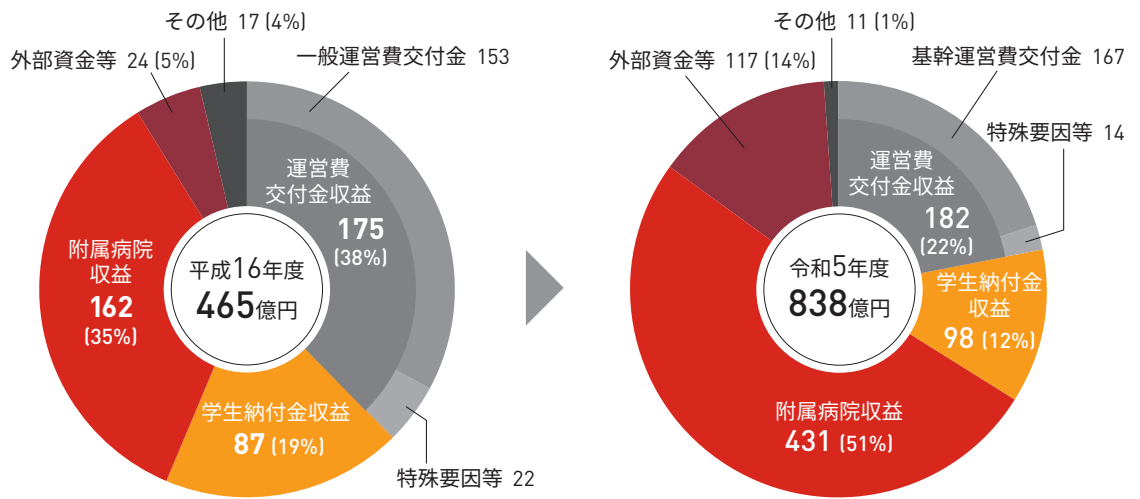
○令和4事業年度において、国立大学法人会計基準等の改訂による資産見返負債の廃止により、資産見返戻入益が計上されたことから、臨時利益が減少しています。(※3)

○附属病院再開業により、目的積立金取崩等が増加しています。(※4)

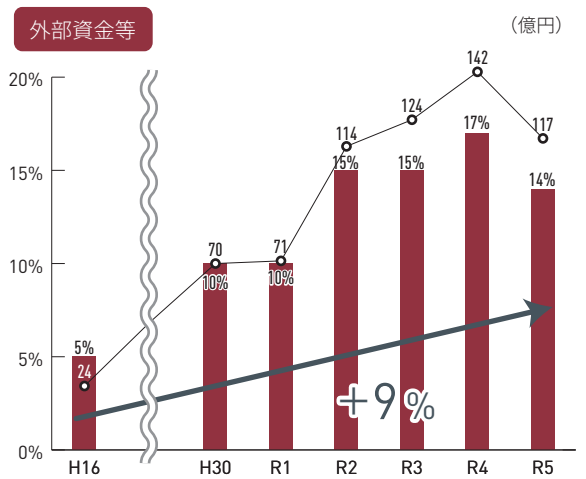
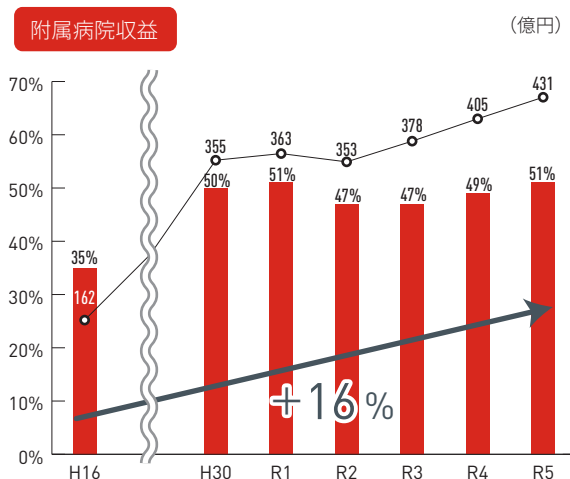
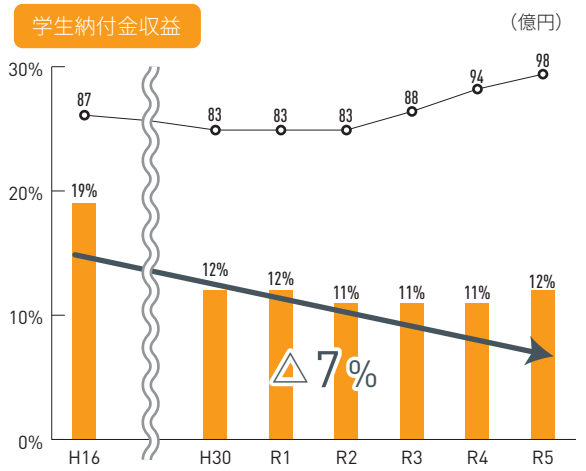
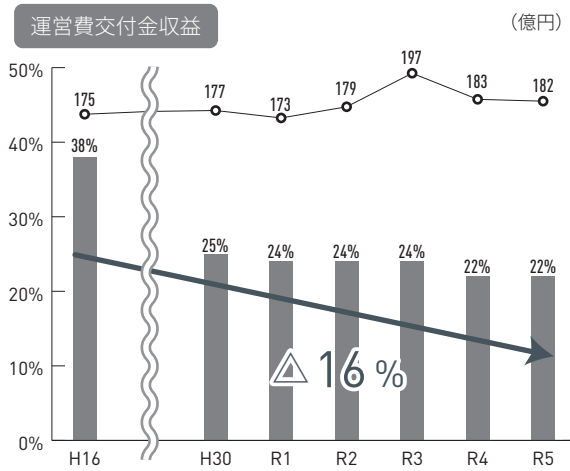
2 主要な経常費用(シェア)の推移



3 主要な経常収益(シェア)の推移



平成16年度(国立大学法人化の初年度)と比べ、経常収益合計に占める運営費交付金収益のシェアが減少しています。その一方で、附属病院収益・外部資金等のシェアが増加しています。



04. セグメント別の状況

1 損益状況について(附属病院セグメントを除く)

(単位：億円)

経常費用		
教育経費	37	(36)
研究経費	43	(40)
診療経費	0	(0)
教育研究支援経費	14	(15)
受託研究費等	32	(30)
人件費	200	(199)
一般管理費	19	(18)
その他	1	(2)
経常費用合計	346	(339)
臨時損失	1	(2.3)
計	347	(342)

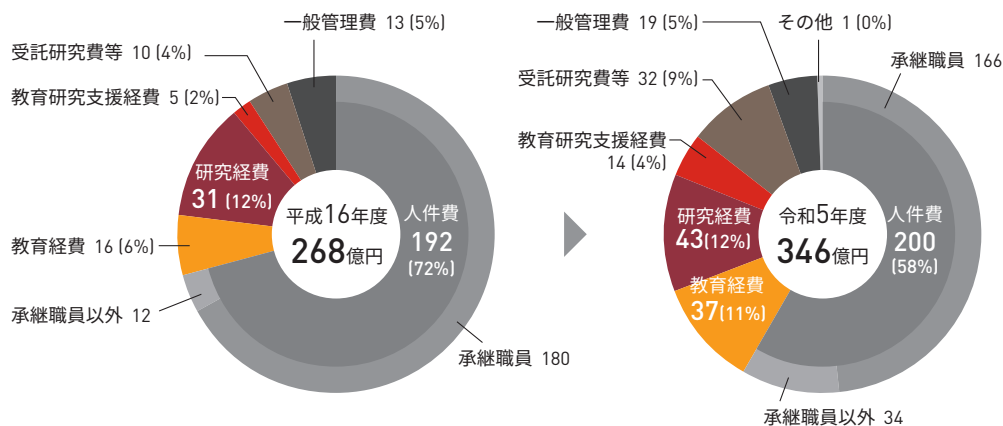
経常収益		
運営費交付金収益	158	(154)
学生納付金収益	98	(94)
附属病院収益	0	(0)
外部資金	69	(64)
機関補助金	22	(21)
その他	8	(4)
経常収益合計	355	(338)
臨時利益	0	(116)
目的積立金取崩等	0	(0.6)
計	355	(454)

当期総利益(損失)	9	(113)
-----------	---	-------

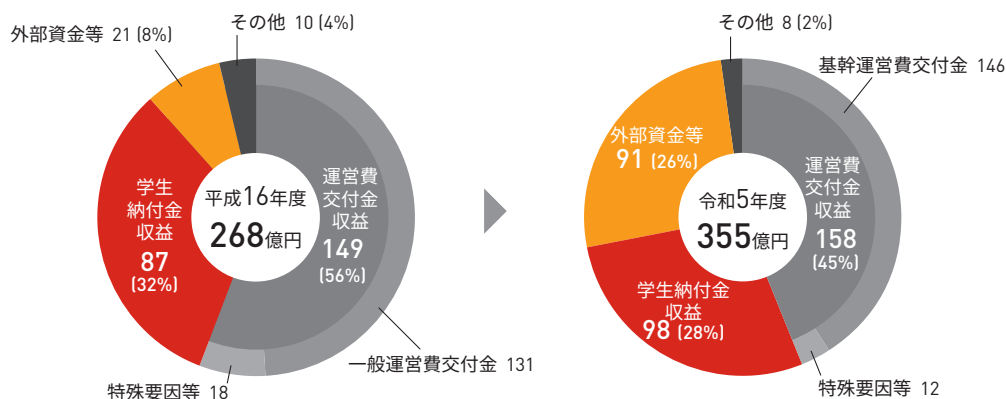
・単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

()は令和4事業年度

2 主要な経常費用(シェア)の推移(附属病院セグメントを除く)



3 主要な経常収益(シェア)の推移(附属病院セグメントを除く)



4 附属病院セグメントの損益状況について

経常費用		
教育経費	0.4	(0.5)
研究経費	4	(5)
診療経費	326	(298)
受託研究費等	9	(11)
人件費	172	(173)
一般管理費	5	(4)
その他	1	(1)
経常費用合計	518	(492)
臨時損失	15	(2.8)
計	533	(495)

経常収益		
運営費交付金収益	24	(29)
附属病院収益	431	(405)
外部資金	14	(16)
機関補助金	12	(4)
その他	3	(4)
経常収益合計	483	(495)
臨時利益	1	(6.6)
目的積立金取崩等	19	-
計	503	(502)

(単位：億円)

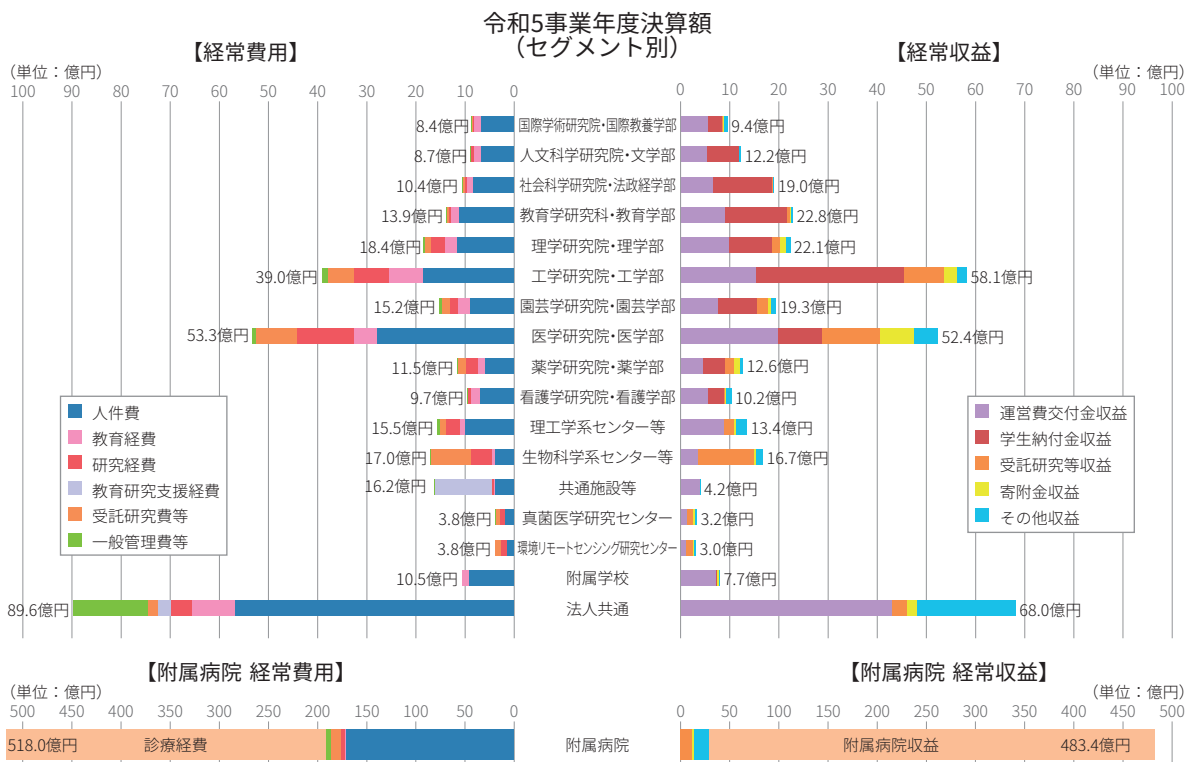
当期総利益(損失) Δ 30 (6)

・単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

()は令和4事業年度

- 附属病院においては、対価を伴う業務により収益が計上されるため、企業会計と同様の会計処理を行います。
- 附属病院セグメントにおいては、効率的な病床運用を行ったこと等に伴う稼働率の増加により、附属病院収益が増加しました。しかし、稼働率増加に伴う医薬品費や診療材料費等による診療経費の増加や、附属病院再開発事業等により、当期総損失が約30億円となりました。

5 セグメント別の損益状況について



各セグメントに属する主な部局等は以下のとおり

(理工学系センター等) : 環境健康フィールド科学センター、フロンティア医工学センター、先進科学センター、デザイン・リサーチ・インスティテュート
 (生物科学系センター等) : バイオメディカル研究センター、予防医学センター、子どものこころの発達教育研究センター、災害治療学研究所
 (共通施設等) : 附属図書館、情報戦略機構

05. 財務指標

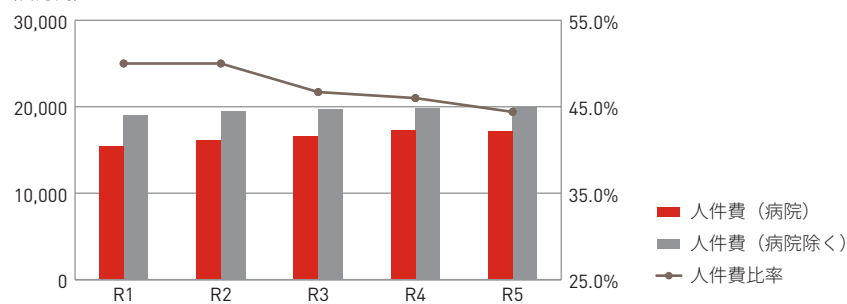
財務指標とは財政状態や運営状況を財務諸表の計数を用いて計算し数値化したものです。

本学では、今後の大学運営の改善や取組の参考とするために、過去の実績値との比較分析を行っています。

(単位：百万円)

1. 人件費比率【効率性】		R1	R2	R3	R4	R5
指標の内容【計算式】	項目					
業務費に占める人件費の割合を示す指標であり、比率が低いほど効率性が高いとされています。 【人件費÷業務費】	人件費比率	50.0%	50.0%	46.7%	46.0%	44.4%
	人件費（病院除く）	19,027	19,533	19,753	19,852	19,963
	人件費（病院）	15,469	16,135	16,628	17,272	17,219
	業務費	68,967	71,403	77,852	80,655	83,769

(百万円)

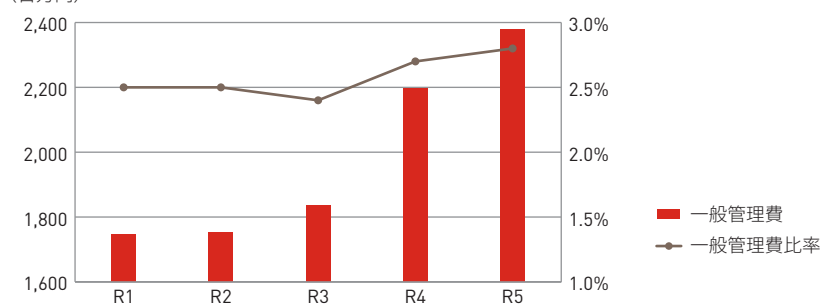


—POINT—
業務費全体の増加に比べ、人件費は横ばいとなっており、人件費比率はR4年度より1.6%減の44.4%となりました。引き続き、業務の改善や効率化を推進するとともに、時間外勤務の削減等に取り組んでまいります。

(単位：百万円)

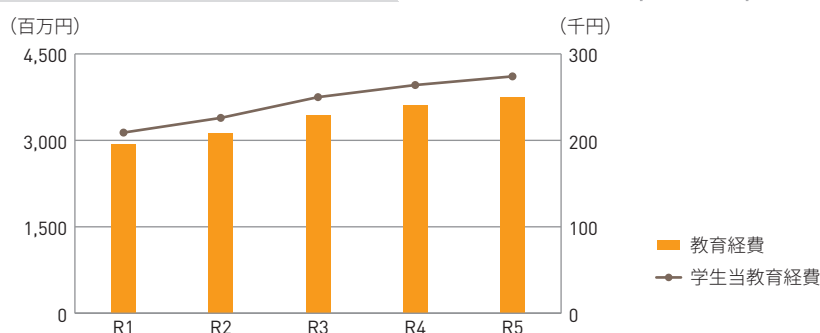
2. 一般管理費比率【効率性】		R1	R2	R3	R4	R5
指標の内容【計算式】	項目					
業務費に占める一般管理費の割合を示す指標であり、比率が低いほど効率性が高いとされています。 【一般管理費÷業務費】	一般管理費比率	2.5%	2.5%	2.4%	2.7%	2.8%
	一般管理費	1,745	1,754	1,835	2,198	2,379
	業務費	68,967	71,403	77,852	80,655	83,769

(百万円)



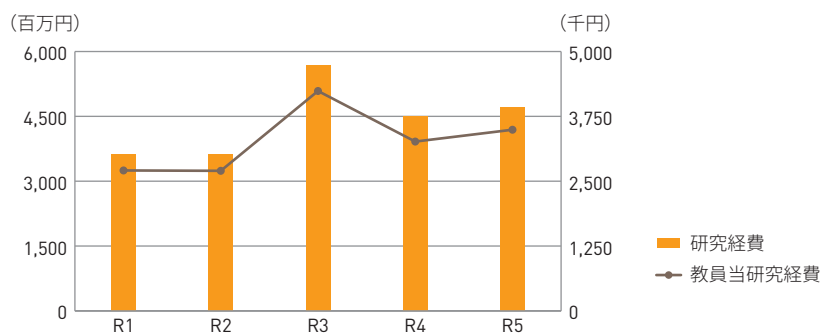
—POINT—
調達費用削減取組に関するコンサルティング業務に伴う業務委託費の増加や電気料の高騰、令和5年度台風13号災害応急復旧工事等による修繕費の増加により、一般管理費率はR4年度より0.1%増の2.8%となりました。

3. 学生当教育経費【活動性】※3		R1	R2	R3	R4	R5
指標の内容【計算式】	項目					
学生一人当たりの教育経費を示す指標であり、この数値が高いほど学生一人当たりにかかれた教育経費が大きいことを示します。 【教育経費÷学生数】	学生当教育経費（千円）	209	226	250	264	274
	教育経費（百万円）	2,933	3,125	3,429	3,603	3,746
	学生数（人）※1	13,983	13,832	13,711	13,630	13,655



—POINT—
 学生当教育経費は、看護・医薬系総合教育研究棟西側屋上防水等改修等による修繕費の増加や、ENGINEプログラム等による外国旅費の増加等により、教育経費が増加したことから、R4年度より10千円増の274千円となりました。今後もより一層の教育環境の整備・充実に努めてまいります。

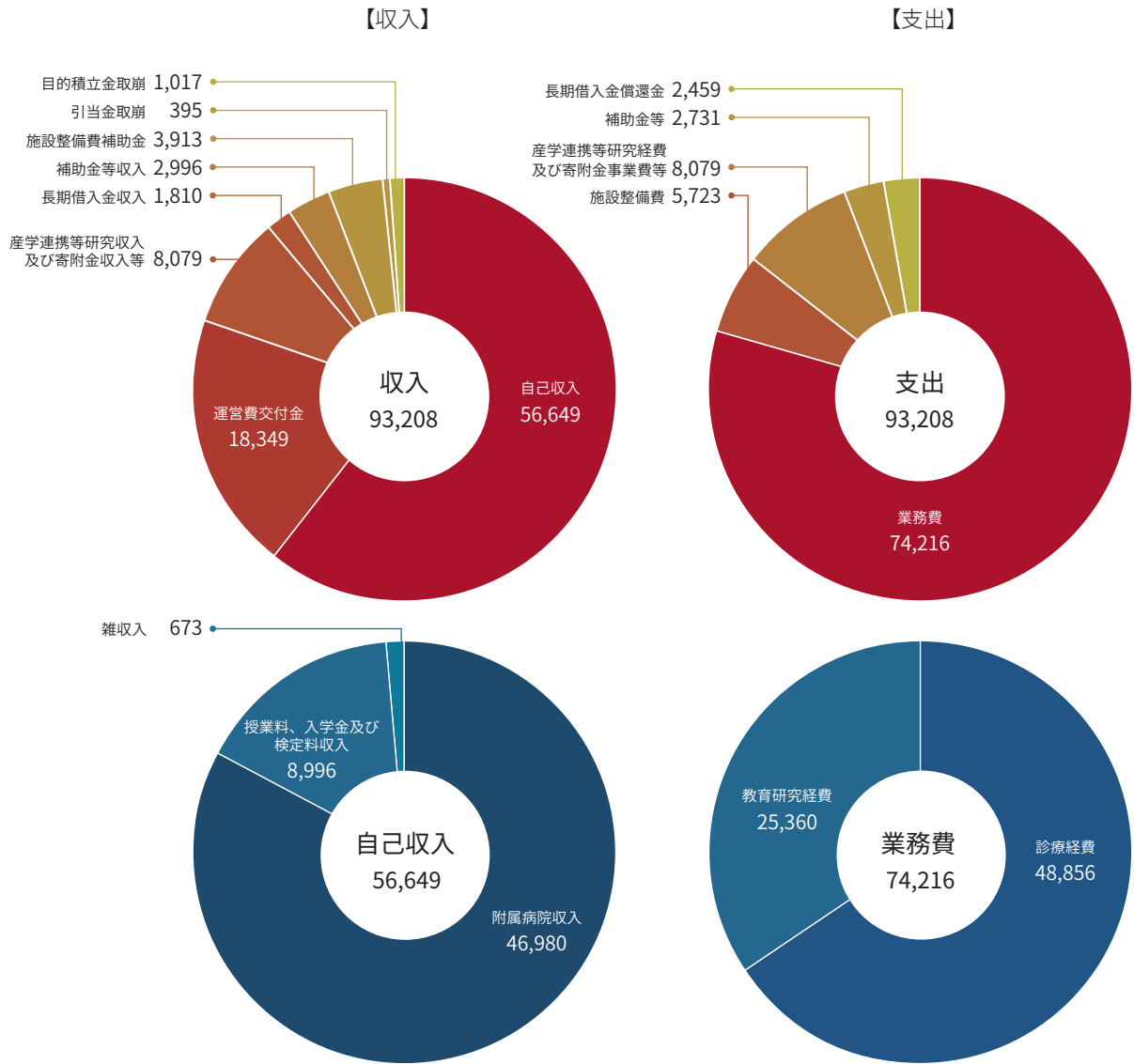
4. 教員当研究経費【活動性】※3		R1	R2	R3	R4	R5
指標の内容【計算式】	項目					
教員一人当たりの研究経費を示す指標であり、この数値が高いほど教員一人当たりが使用した研究経費が大きいことを示します。 【研究経費÷教員数】	教員当研究経費（千円）	2,707	2,700	4,239	3,264	3,492
	研究経費（百万円）	3,629	3,618	5,680	4,495	4,700
	教員数（人）※2	1,340	1,340	1,340	1,377	1,346



—POINT—
 教員当研究経費は、研究活動の活発化により外国旅費等が増加したことから、R4年度より228千円増の3,492千円となりました。引き続き研究環境の整備・充実に努め、研究経費の確保に取り組んでまいります。

- ※1 学生当教育経費の学生数は、各事業年度の5月1日現在における学士課程、修士課程、博士課程、専門職学位課程の在籍者の数としています。
- ※2 教員当研究経費の教員数は、財務諸表附属明細書「役員及び教職員の給与の明細」における常勤の教員（任期付き教員を含む）の数としています。
- ※3 「学生当教育経費」「教員当研究経費」は、それぞれ財務諸表上の教育経費、研究経費を学生数、教員数で割ったものであり、教職員の人件費や一般管理費等は含まれていません。

(単位:百万円)



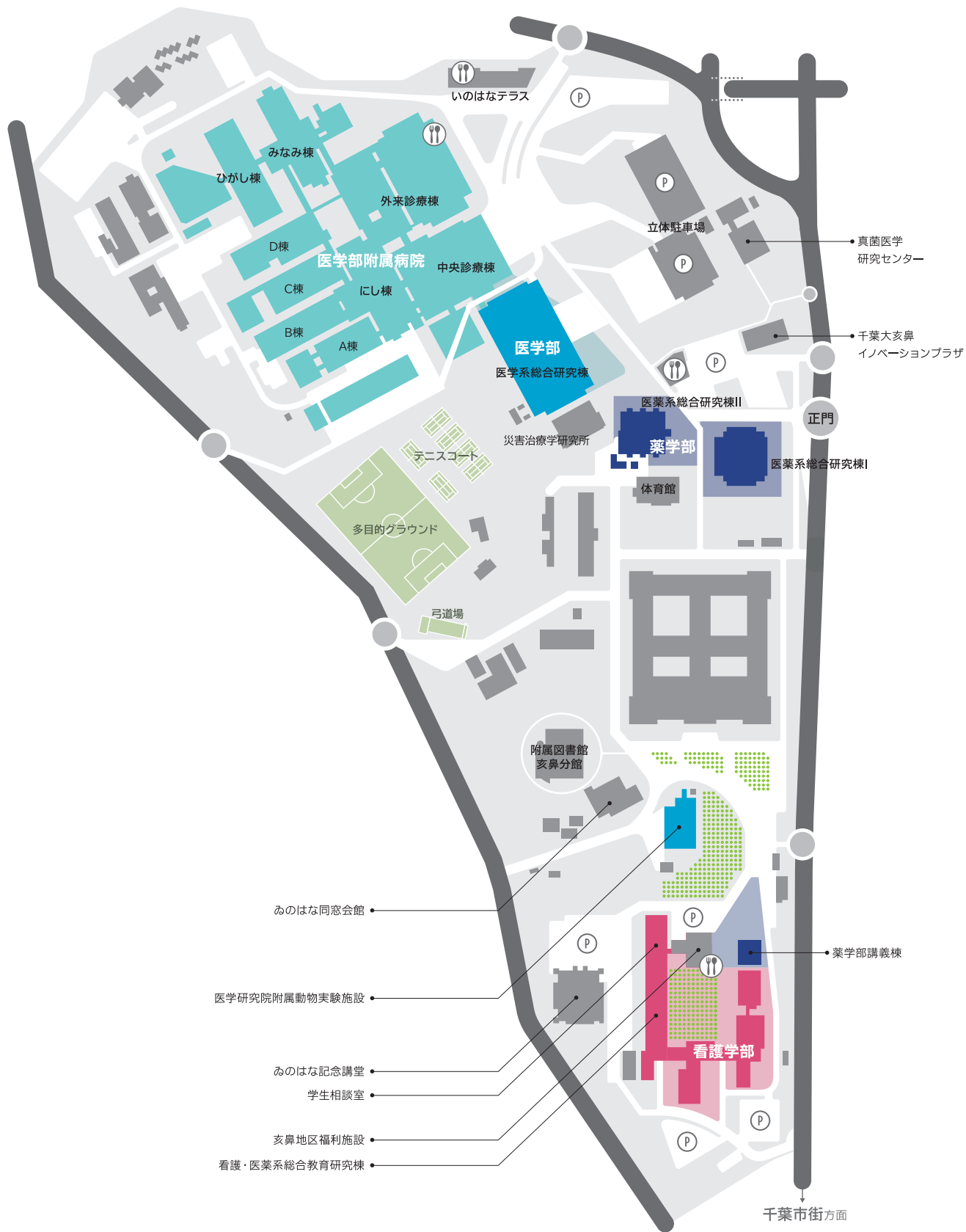
[人件費の見積り] 期間中総額38,401百万円を支出する(退職手当は除く)。



- 総合校舎/国際教養学部
- 教育学部
- 文学部/法政経学部
- 理学部
- 工学部/情報・データサイエンス学部

〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1-33
TEL 043-251-1111





- 医学部
- 薬学部
- 看護学部

〒260-8670 (医)、〒260-8675 (薬)、〒260-8672 (看)、〒260-8673 (真菌)、〒260-8677 (附属病院) 千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL 043-222-7171

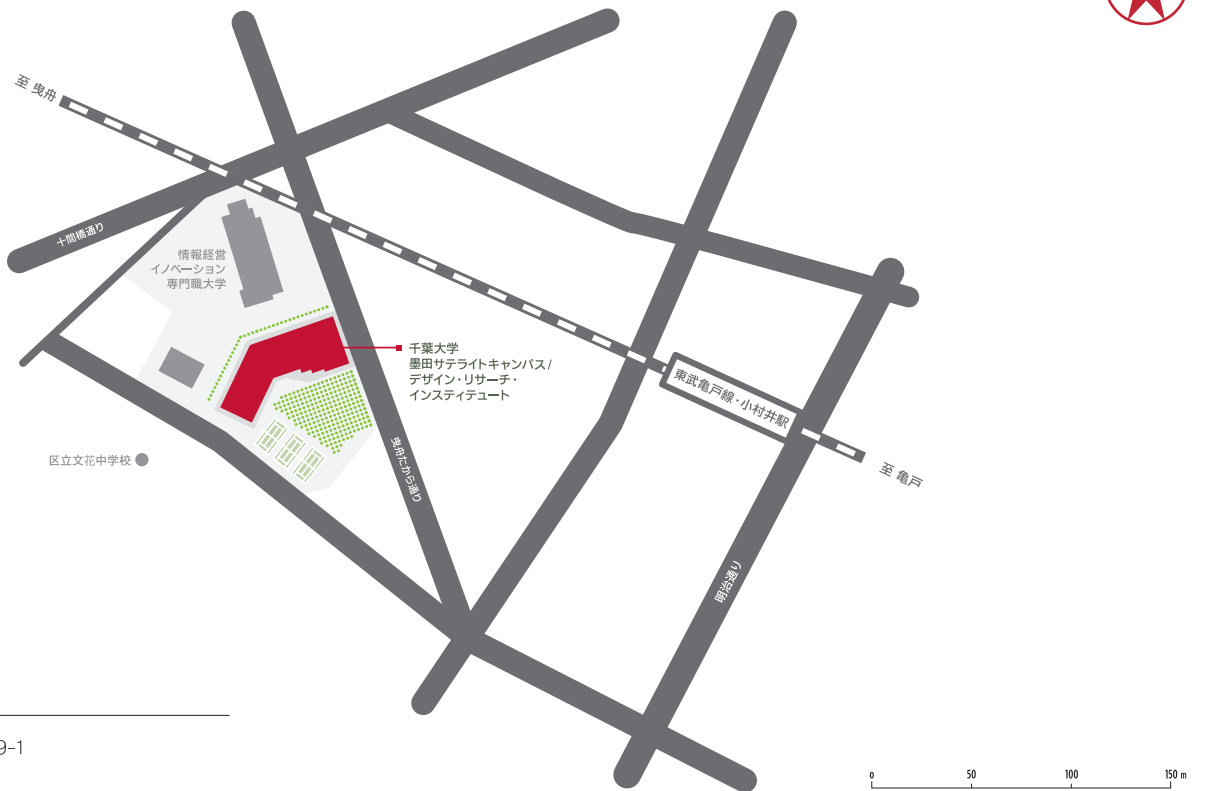


● 園芸学部

〒271-8510 松戸市松戸648
TEL 047-308-8706



〒277-0882 柏市柏の葉6-2-1
TEL 04-7137-8000



〒131-0044 墨田区文花1-19-1
TEL 03-5655-5611

アクセス

西千葉キャンパス

国際教養学部、文学部、法政経学部、教育学部、理学部、工学部、情報・データサイエンス学部

- JR総武線 西千葉駅 北口より徒歩2分(キャンパス南門)
- 京成千葉線 みどり台駅より徒歩7分(キャンパス正門)

亥鼻(いのはな)キャンパス

医学部、薬学部、看護学部

- JR各線・京成千葉線 千葉駅 東口7番のバス乗り場より、京成バス「千葉大学病院」行きまたは「南矢作」行きバスに約15分乗車、「千葉大看護学部入口」または「千葉大医学部・薬学部入口」バス停で下車
- 医学部附属病院へは、同バス「千葉大学病院」バス停で下車

松戸キャンパス

園芸学部

- JR常磐線・新京成線 松戸駅 東口より徒歩15分
- JR総武線 市川駅より京成バス「松戸営業所」又は「く矢切経由」松戸駅行きに約30分乗車、「小山」バス停で下車後、徒歩5分

柏の葉キャンパス

環境健康フィールド科学センター

- つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス駅より徒歩5分
- JR常盤線・東武アーバンパークライン 柏駅 西口2番のバス乗り場より、東武バスイースト「国立がん研究センター」又は「柏の葉キャンパス駅西口」行きバスに約20分乗車、「柏の葉高校前」バス停で下車後、徒歩8分

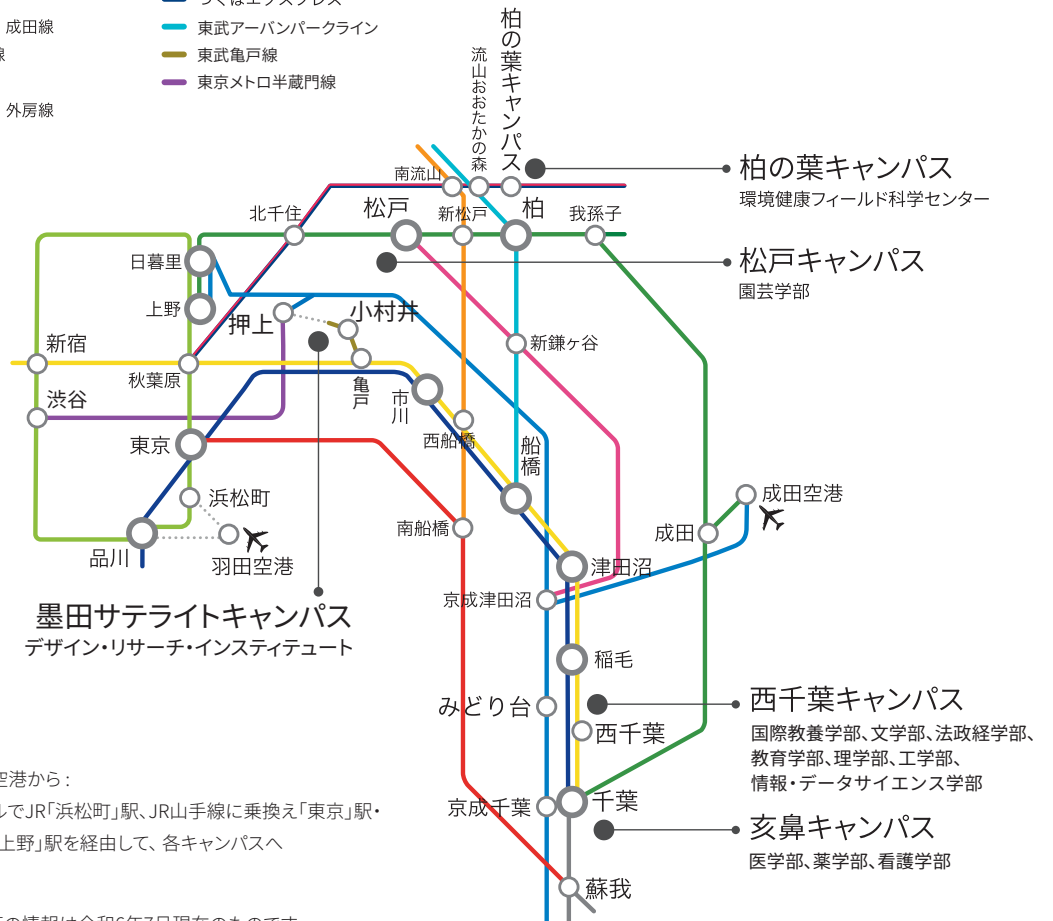
墨田サテライトキャンパス

デザイン・リサーチ・インスティテュート

- 東武亀戸線 小村井駅より徒歩5分
- 京成押上線・東京メトロ半蔵門線 押上駅より徒歩15分
- 押上駅からバス利用の場合
 - 都営バス:「青戸車庫前」行きバスに約7分乗車、「文花三丁目」バス停で下車後、徒歩3分
 - 京成バス:墨田区内循環バス乗り場「北東部ルート」に約8分乗車、「緑と花の学習園／香取神社入口」バス停で下車後、徒歩1分

- JR中央・総武各駅停車
- JR総武快速線・横須賀線
- JR山手線
- JR常磐線・成田線
- JR武蔵野線
- JR京葉線
- JR内房線・外房線

- 京成線
- 新京成線
- つくばエクスプレス
- 東武アーバンパークライン
- 東武亀戸線
- 東京メトロ半蔵門線



- 備考 羽田空港から:
東京モノレールでJR「浜松町」駅、JR山手線に乗換え「東京」駅・「秋葉原」駅・「上野」駅を経由して、各キャンパスへ

※電車・バス等の情報は令和6年7月現在のものです



千葉大学基金は 「チャレンジを支え、人を育てる基金」です

令和5年度も皆様からの温かいご支援とご協力を頂戴し、総額3億円を超えるご寄付を賜りました。あらためて心より厚く御礼申し上げます。
皆様から頂いた寄付金は、大切に運用しながら本学の教育研究活動等に活用してまいります。引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和5年度の
寄付実績

寄付
件数

2,508 件

寄付
総額

3億 7,727 万円

千葉大みらい医療基金(医学研究の推進・医学教育の支援等)、その他を含む

寄付メニューのご紹介

大学に一任

幅広く教育研究活動事業に活用させていただきます。



学生支援

修学支援(税額控除対象)
環境ISO学生委員会支援
学部支援、体育会ヨット部支援



研究支援

若手研究者支援(税額控除対象)
みらい医療研究支援

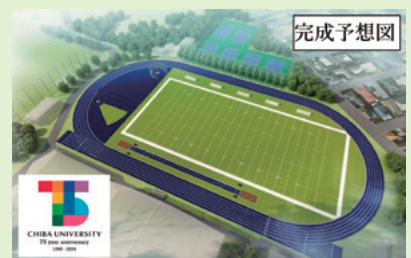


千葉大学創立75周年記念事業募金

2024年、千葉大学は創立75周年を迎えます。

これを記念して、陸上グラウンドの整備事業を行っており、竣工は2024年9月末を予定しています。

それ以降にいただいたご寄付については、学生の課外活動の施設等の維持管理に活用させていただきます。



活動報告

千葉大学基金のホームページにご寄付についての用途報告や感謝の声を掲載させていただいております。



お申し込み方法

クレジットカード
インターネットバンキングによるご寄付

千葉大学基金のホームページから
ご寄付をお願いいたします。

千葉大学基金



遺贈によるご寄付

遺贈によるご寄付も承っております。
詳しくは、千葉大学基金室(043-290-3902)までご相談ください。

銀行・郵便局からの振込をされる方は、メールまたはお電話にてご連絡ください。後ほど振込用紙を送付させていただきます。

お問い合わせ先 千葉大学基金室

☎ 043-290-2014

ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

FAX 043-284-2550

メール kikin@office.chiba-u.jp

ホームページ <http://kikin.chiba-u.ac.jp>

住所 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33



AD ALTIORA SEMPER
UNIVERSITAS CHIBA



CHIBA UNIVERSITY

75 year anniversary

1949 - 2024

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
www.chiba-u.ac.jp



© 2024 Chiba University. All Rights Reserved.